5　歴史学専攻

(1)　修士課程

◎　目　　的

歴史学専攻は，日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各々の分野において，学部の教育を基礎として，専門的な研究能力を身につけることによって，研究・教育およびその他の多方面の分野での職業的能力を有する人材の養成を目的とする。

◎　学位授与の方針

修士課程に２年以上在学し，「教育課程の編成・実施方針」に沿った開講科目を30単位以上修得し，かつ，必要な研究指導を受けたうえ，修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各専門分野において，学部の教育を基礎として，広い視野に立った精深な学識を修得し，歴史学専攻の伝統的実証史学である史資料に依拠した専門的な研究能力を身につけることによって，歴史学の成果を社会に還元できること。

大学・研究機関において研究者・教育者・指導者として，また，高等学校をはじめとする教育界や博物館・資料館・文書館・教育委員会などで，専門職として十分に活躍できるだけの人格と専門的研究能力に裏打ちされた力量を兼ね備えていること。

以上のことを満たす人材に修士（歴史学）の学位を授与する。

◎　教育課程の編成・実施方針

各コースの履修科目は特講と演習が設けられている。特講については広い領域にわたる学術研究の基礎を培い，社会の基本的要請，例えば教育機関あるいは研究機関への要請に応え得るよう高度の能力を養う講義を行う。また演習においては，本専攻の伝統的実証史学の追究を指導し，広視野に立った史資料を駆使した論文作成のための研究能力を養う指導を行っている。

教育理念である広い視野に立って精深な学識を授け，専門分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度な能力を養う。そのため，歴史の文献研究だけでなく，アーカイブズ論，記録史料学といった今後の研究動向を見据えた知的情報整理・保存・利用の研究も取り入れた。特に国内や海外の原史料に依拠した研究指導は本専攻の特色である。また，考古学では国内外の発掘調査を行い，それに基づく研究指導も行っている。

さらに，単位互換協定校との単位互換制度も設けている。

◎　修了の要件

１．修士課程に２年以上在学し，30単位以上修得し，かつ，必要な研究指導を受けたうえ，修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければなりません。

２．各年次の履修単位数は，原則として１年次は指導教員の演習４単位を含む20単位以上30単位未満とし，２年次は指導教員の演習を含む４単位以上とします。

年次	必 修 科 目	選択科目	合　計
１年次	指導教員の演習４単位	所属するコースの科目22単位以上または 他コースの科目８単位以内を含む22単位以上	30単位以上
２年次	指導教員の演習４単位		

※　所属するコースの科目は指導教員の演習を含め22単位以上履修してください。

※　他コースの科目は２科目（８単位以内）履修することができます。

◎　学位論文の審査基準

論文審査にあたっては，下記の項目を審査基準とする。

１．研究史を踏まえ独自性のある研究となっているか

２．広い視野と精深な学識があるか

３．史資料解釈の妥当性があるか

４．論文の内容と結論までの一貫性があるか

５．研究成果の公表を行っているか

◎　履修上の注意

１．履修科目の選択にあたっては，指導教員の指導を受け，研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修してください。

２．指導教員が必要と認めた場合には，指導教員以外の演習科目の中から10単位，他専攻の講義科目の中から４単位に限り履修することができます。その場合は，その科目の担当教員の承諾を得てください。

３．指導教員が必要と認めた場合は，交流協定校「学生交流協定（他大学大学院および大学共同利用機関履修）<P.12>」の授業科目を履修することができます。

４．他専攻取得単位・他大学大学院取得単位・協定（認定）校留学により取得した単位は合計10単位を上限として，修了に必要な

歴史.indd　94　　2015/03/10　15:30:53

単位として認定することができます。

5．他系統学部出身者には，当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため，大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合，学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがあります。ただし，関連基礎科目の単位は認定しません。

◎　開講科目

【日本史学コース】

授業科目	学習方法	単位数	担当者	備考
日本史学特講Ⅰ	講義	4	専任・博（文）　瀧音能之	
日本史学演習Ⅰ	演習	4	専任・博（文）　瀧音能之	
日本史学特講Ⅱ	講義	4	専任　松本信道	
日本史学演習Ⅱ	演習	4	専任　松本信道	
日本史学特講Ⅲ	講義	4	兼任・博（歴）　平野明夫	
日本史学演習Ⅲ	演習	4	専任・文博　久保田昌希	
日本史学特講Ⅳ	講義	4	専任・文博　廣瀬良弘	（本年度休講）
日本史学演習Ⅳ	演習	4	専任・文博　廣瀬良弘	（本年度休講）
日本史学特講Ⅴ	講義	4	専任・博（日）　中野達哉	
日本史学演習Ⅴ	演習	4	専任・博（日）　中野達哉	
日本史学特講Ⅵ	講義	4	専任・博（歴）　湯浅隆	
日本史学演習Ⅵ	演習	4	専任・博（歴）　湯浅隆	
日本史学特講Ⅶ	講義	4	専任・博（歴）　小泉雅弘	
日本史学演習Ⅶ	演習	4	専任・博（歴）　小泉雅弘	
日本史学特講Ⅷ	講義	4	専任・博（文）　熊本史雄	
日本史学演習Ⅷ	演習	4	専任・博（文）　熊本史雄	
日本史学特講Ⅸ	講義	4	兼任　宇佐美正利	
日本史学特講Ⅹ	講義	4	兼任　林譲	
日本史学特講Ⅺ	講義	4	兼任　太田尚宏	
日本史学特講Ⅻ	講義	4	兼任・博（歴）　小林和幸	
アーカイブズ論	講義	4	兼任・博（史）　高橋実	
記録史料管理論	講義	4	兼任・博（文）　中野目徹	
記録史料収集整理研究	講義	4		（本年度休講）
史料情報管理学研究	講義	4	国文学研究資料館	

注）東洋史学・西洋史学・考古学の他コース科目より２科目（８単位）以内を履修することができる。

【東洋史学コース】

授業科目	学習方法	単位数	担当者	備考
東洋史学特講Ⅰ	講義	4	専任　石井仁	
東洋史学演習Ⅰ	演習	4	専任　石井仁	
東洋史学特講Ⅱ	講義	4	専任・博（文）　中村淳	
東洋史学演習Ⅱ	演習	4	専任・博（文）　中村淳	
東洋史学特講Ⅲ	講義	4	兼任　金子修一	
東洋史学特講Ⅳ	講義	4	兼任・博（文）　宮嵜洋一	
東洋史学特講Ⅴ	講義	4	兼任・博（文）　杉山清彦	
東洋史学特講Ⅵ	講義	4	兼任・博（文）　須江隆	

注）日本史学・西洋史学・考古学の他コース科目より２科目（８単位）以内を履修することができる。

【西洋史学コース】

授業科目	学習方法	単位数	担当者	備考
西洋史学特講Ⅱ	講義	4	専任・博（歴）　佐々木真	
西洋史学演習Ⅱ	演習	4	専任・博（歴）　佐々木真	
西洋史学特講Ⅲ	講義	4	専任・博（文）　大城道則	
西洋史学演習Ⅲ	演習	4	専任・博（文）　大城道則	
西洋史学特講Ⅳ	講義	4	兼任・博（文）　井上文則	
西洋史学特講Ⅴ	講義	4	兼任　篠原琢	

注）日本史学・東洋史学・考古学の他コース科目より２科目（８単位）以内を履修することができる。

歴史.indd　95　　2015/03/10　15:30:53

【考古学コース】

授業科目	学習方法	単位数	担当者	備考
考古学特講Ⅰ	講義	4	専任・博（文） 寺前直人	
考古学演習Ⅰ	演習	4	専任・博（文） 寺前直人	
考古学特講Ⅱ	講義	4	専任・博（日） 酒井清治	
考古学演習Ⅱ	演習	4	専任・博（日） 酒井清治	
考古学特講Ⅳ	講義	4	兼任・博（文） 土生田純之	
考古学特講Ⅴ	講義	4	兼任・文博 高久健二	
考古学特講Ⅵ	講義	4	兼任・博（文） 山本暉久	
考古学特講Ⅶ	講義	4	兼任・博（文） 設楽博己	

注）日本史学・東洋史学・考古学の他コース科目より２科目（８単位）以内を履修することができる。

◎　講義内容

日本史学特講Ⅰ【講義】

瀧音能之

授業概要
古代出雲の研究を行います。
到達目標（ねらい）
出雲を通して，日本の古代史を見渡す力を養成することを目標とします。
授業スケジュール
第１回目にガイダンスを行い，第２回目以降はテーマを設定して，それについて講義いたします。
準備学習
講義するテーマにあわせて予習を行ってください。
成績評価の方法
レポート80%，平常点20%
教科書／テキスト
第１回目に指示いたします。

日本史学演習Ⅰ【演習】

瀧音能之

授業概要
『扶桑略記』の講読を行います。
到達目標（ねらい）
『扶桑略記』をできる限り丁寧に読み込むことによって，古代史料の読解法をマスターすることを目指します。
授業スケジュール
第１回目にガイダンスを行い，第２回目以降は，受講生の報告を中心に演習を行います。
準備学習
報告者は十分に予習をし，他の受講生はそれに対して，質問などを積極的に行ってください。
成績評価の方法
レポート20%，平常点80%
教科書／テキスト
コピーを使用します。

日本史学特講Ⅱ【講義】

松本信道

授業概要
奈良時代の政治と仏教との関連と，古代の貴族達の仏教信仰の実態と特質について究明することを目的とする。具体的には，日本最初の仏教伝記集である思託撰『延暦僧録』を取り上げ，それに見える貴族・僧侶の伝記を輪読し，それぞれの生涯と政治とのかかわり及び仏教信仰について検討を加え，その歴史的役割・意義について討議してみたい。
到達目標（ねらい）
奈良時代の政治と仏教との関連と，古代の貴族達の仏教信仰の実態と特質について究明することを目的とする。
授業スケジュール
第１回　　ガイダンス，奈良仏教の成立と展開
第２～３回　『延暦僧録』の成立
第４～10回　普照，栄叡，思託，鑑真
第11～14回　聖徳太子，天智天皇
第15～18回　聖武天皇，光明皇后
第19～23回　藤原種継，藤原魚名
第24～27回　石上宅嗣，淡海三船
第28～30回　藤原種継，文屋浄三
準備学習
漢文の読解力を高めておくこと。
成績評価の方法
レポート80%，平常点20%
レポートと平常点で評価する。
教科書／テキスト
テキストはコピーして配布します。

日本史学演習Ⅱ【演習】

松本信道

授業概要
本講座は，最澄の伝記である『叡山大師伝』を取り上げ，それを輪読することによって，漢文史料の読解力を涵養することを第一の目標とする。さらに最澄に関連する他の史料と比較検討し，その実像を究明することを第二の目標とする。
到達目標（ねらい）
漢文史料の読解力を涵養することを目標とする。
授業スケジュール
第１回はガイダンス。第２回以後，第30回まで『叡山大師伝』の輪読。
準備学習
漢文読解力を高めておくこと。
成績評価の方法
レポート80%，平常点20%
輪読の平常点と学年末のレポートで評価する。
教科書／テキスト
テキストはコピーして配布します。

日本史学特講Ⅲ【講義】

平野明夫

授業概要
中世から近世への移行期について，とくに東海・関東地方を対象として，政治史および社会経済史に関する問題を講義する。具体的には中村孝也『新訂徳川家康文書の研究』を読みながら，当該期の動向を追っていく。その際，研究の現状をふまえて，研究史的課題・状況や，問題点を指摘しつつ，今後の研究の展望についても触れる予定である。
到達目標（ねらい）
中世後期における史料解釈の方法を学び，深める。中世後期社会を理解する。

歴史.indd　96　　2015/03/10　15:30:54

授業スケジュール

講義形式を基本とするが，進捗のなかで，時には受講生に史料解釈などの課題と取り組んでもらうこともある。本年度は，前年度に引き続き，永禄10年から始める。

第１回　　ガイダンス
第２回　　自序・序説―松平・徳川氏研究史―
第３～29回　時代背景解説，文書講読
第30回　　まとめと今後の展望

準備学習

事前に，中村孝也『新訂徳川家康文書の研究』を読んでおいてほしい。また，関連する研究や史料を読んでおくことを勧める。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

学年末の段階における課題に関わるレポートによって評価する。

教科書／テキスト

中村孝也『新訂徳川家康文書の研究』（日本学術振興会）

＊必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

日本史学演習Ⅲ【演習】

久保田　昌　希

授業概要

本演習についての柱は二つ。一つは，中世から近世への移行期に関わる史料をもとに，受講生各自の問題関心に合わせて当該期の歴史的展開を考えていく。現在は，三河国深溝の領主で，松平一族である松平家忠が著した『家忠日記』をテキストにしている。受講生は，月単位で『家忠日記』を担当するが，始めに逐条輪読を経て，その後人名・地名・語句の解説，記載事項と関わる史料の紹介・解説，さらにそれらを踏まえた当該期の国内情勢などについて紹介する。その後，討論を行なう。

もう一つは，受講生の研究課題に関する報告の「場」である。修士論文の中間報告や，学内外での研究発表にむけての準備報告など適宜行なう（報告は適宜に行うので，年度ごとに異なり，中途でのスケジュール変更は当然で，後述の「授業スケジュール」欄に『家忠日記』講読として示している）。また夏季には，関連地域への史資料見学や実地・景観の実踏調査も行ない，理解を深めている。

到達目標（ねらい）

以下の点を掲げる。

大学院修士課程に学ぶ院生として，相応しい研究力をもち，着実に研究成果を蓄積していく姿勢を築くこと。また学内外の学会や調査活動への参加を通して，研究力の練磨はもちろんのこと，多くの研究者と分野・専門領域を超えて交流することで，自らを鍛えていこうという姿勢を築くこと。

授業スケジュール

第１回　ガイダンス
第２回　『家忠日記』概説
第３回　『家忠日記』概説
第４回　『家忠日記』講読
第５回　『家忠日記』講読
第６回　『家忠日記』講読
第７回　『家忠日記』講読
第８回　『家忠日記』講読
第９回　『家忠日記』講読
第10回　『家忠日記』講読
第11回　『家忠日記』講読
第12回　『家忠日記』講読
第13回　『家忠日記』講読
第14回　『家忠日記』講読
第15回　『家忠日記』講読
第16回　『家忠日記』講読
第17回　『家忠日記』講読
第18回　『家忠日記』講読
第19回　『家忠日記』講読
第20回　『家忠日記』講読
第21回　『家忠日記』講読
第22回　『家忠日記』講読
第23回　『家忠日記』講読
第24回　『家忠日記』講読
第25回　『家忠日記』講読
第26回　『家忠日記』講読
第27回　『家忠日記』講読
第28回　『家忠日記』講読
第29回　『家忠日記』講読
第30回　『家忠日記』をめぐる意見交換

準備学習

『家忠日記』講読の準備としては，天正期の東海地方や関東地方の歴史，また松平氏を含む徳川氏，織田・豊臣氏，そして北条氏や武田氏をめぐる政治史関係の図書・論文を読むことを勧める。また東海地方や関東地方の地名について，とくに合戦や町場・交通などと関連する地域の地図を眺めながらのイメージ作りも大切である。

なお，『家忠日記』の原本は，本学図書館が所蔵している。図書館ホームページで公開しているので，講読準備および講読に役立ててほしい。

成績評価の方法

レポート50%，発表内容（含作成レジュメ）50%

履修上の留意点

受講生各自の研究テーマを基本にしつつ，その視点・観点から『家忠日記』を読み込むことで，有意義な情報が得られるであろう。さまざまな史資料集や事典を駆使して講読に臨んでほしい。

教科書／テキスト

『家忠日記』など。

参考書

適宜紹介する。

日本史学特講Ⅴ【講義】

中　野　達　哉

授業概要

近世において，江戸は日本の首府，総城下町となったが，御府内といわれる江戸の町だけで存続し得たのではなく，それをとりまく江戸周辺の村々が，物・人・土地を江戸や江戸城に供給し補完することによって機能することができた。また，江戸周辺地域の村々も江戸と結びつくことによって他には見られない固有の展開を見せた。そして，江戸は，多様な武家と町人・百姓が混在する都市となった。この江戸の社会の様子を弘前藩が作成した江戸藩邸の記録「弘前藩庁日記（江戸）」から読み解く。

到達目標（ねらい）

本講義では，江戸の藩邸の記録「弘前藩庁日記（江戸）」をテキストにして，江戸・江戸周辺地域社会について考えることを目的とするとともに，古文書を読む力，正確な解読力をつけることを目的とする。

授業スケジュール

「弘前藩庁日記（江戸）」を講読する。まず，近世文書の読み方についての指導からはじめ，さらに講読した記事の内容について解説し，あるいは受講生に調べてもらう。予習してくることを前提に授業を進める。

第１回　　授業についてのガイダンス
第２回　　弘前藩の江戸屋敷と本所深川地域についての概説
第３回～最終回　享保期「弘前藩庁日記（江戸）」の講読と解説

なお，進度は受講者に合わせる。

また，９月末か10月初め頃に４日間程度，長野県佐久市に

歴史.indd　97　　2015/03/10　15:30:54

おいて史料調査実習（合宿）を行う。

準備学習

必ず予習してくること。

成績評価の方法

平常点100％

履修上の留意点

史料調査実習は必ず参加すること，課題授業として実施する。

教科書／テキスト

教科書はなし。テキスト「弘前藩庁日記（江戸）」は講読対象部分をコピーして配布する。

参考書

中野達哉『江戸の武家社会と百姓・町人』（岩田書院 2014年）

日本史学演習Ⅴ【演習】

中　野　達　哉

授業概要

日本近世の政治・社会･経済・地域などについて，受講生の問題関心に関わるテーマを取り上げ，授業を行う。

到達目標（ねらい）

修士論文を書くための資料の調査方法と解読・分析力，論理的な考察力，論述する力をつけ，より充実した修士論文を書けるようになることを目標とする。

授業スケジュール

受講者の問題関心に沿ったテーマを設け，受講者の発表を中心に授業を進める。研究史の整理と評価，受講者の調査・研究の両面から，そのテーマについて考える。

なお，９月末～10月初め頃に，４日程度史料調査実習（合宿）を実施する。

第１回	授業についてのオリエンテーション。前期発表順の決定
第２～12回	個人研究発表と討論。
第13回	史料調査実習（合宿）についての打ち合わせ
第14～17回	史料調査実習（佐久市望月にて実施，課題授業として実施予定）
第18回（後期初回）	後期発表順の決定
第19～30回	個人研究発表と討議

準備学習

予定されている発表テーマについて調べ，予備知識を持って授業に参加すること。

成績評価の方法

平常点100％

授業での平常点および史料調査実習での取り組みにより評価する。年度末レポートなどは課さない。

履修上の留意点

史料調査実習は必ず参加すること。

教科書／テキスト

教科書はなし。

日本史学特講Ⅵ【講義】

湯　浅　　隆

授業概要

江戸時代を対象として，宗門の主だった寺院や，社格の高い神社における堂舎の維持のあり方を，社会状況との関連のもとに述べる。

到達目標（ねらい）

先行研究を承けて研究上の問題点を摘出し，史料に基づいて論を展開する過程を，具体的な事例を示すことで認識させる。

授業スケジュール

第１回　先行研究の整理と論点の摘出
第２回　先行研究の整理と論点の摘出
第３回　先行研究の整理と論点の摘出
第４回　先行研究の整理と論点の摘出
第５回　先行研究の整理と論点の摘出
第６回　先行研究の整理と論点の摘出
第７回　古代における寺社の創建
第８回　古代における寺社堂舎の維持
第９回　中世における寺社堂舎の維持
第10回　戦国期における寺社勢力と堂舎
第11回　豊臣秀頼による寺社堂舎の普請
第12回　近世社会における寺社のありよう
第13回　近世の本末制度のもとにおける本寺のあり方
第14回　近世の在方社会における寺社の位置
第15回　近世における寺社の財政基盤-外護者との関係-
第16回　木造建造物の耐久性
第17回　江戸幕府に縁故ある寺社の堂舎整備
第18回　寺社堂舎維持にかんする江戸幕府の政策基調－三間梁規制－
第19回　寛文から元禄期における寺社堂舎の修復
第20回　江戸幕府の享保改革
第21回　享保改革における寺社堂舎維持策の転換
第22回　勧化
第23回　富突
第24回　開帳
第25回　祠堂金
第26回　江戸時代後期における寺社堂舎維持策の実効性
第27回　事例（１）岡崎・伊賀八幡宮
第28回　事例（２）信州善光寺
第29回　神仏判然令の影響
第30回　古社寺保存法以降

準備学習

指示を，ことさらにする必要があるとは認識していない。

成績評価の方法

平常点100％

授業へのかかわり方で判定する。

履修上の留意点

授業スケジュールのうち，大学暦で課題授業に設定されている回はその形式となる。

教科書／テキスト

特定のものは使用しない。

参考書

その都度に提示する。

日本史学演習Ⅵ【演習】

湯　浅　　隆

授業概要

寺社の募縁にかんする，江戸時代の史料を購読する。

到達目標（ねらい）

歴史史料の厳密な解釈･考証をしていくための能力の修得。

授業スケジュール

およそ10回程度：江戸幕府二代将軍の産土神を祀る神社の文書を講読する。
およそ10回程度：江戸幕府三代将軍の霊廟をもつ寺の文書を講読する。
およそ10回程度：信州善光寺に関係する文書の講読。

準備学習

指示を，ことさらにする必要があるとは認識していない。

成績評価の方法

平常点100％

授業のかかわり方で判定する。

履修上の留意点

授業スケジュールのうち，大学暦で課題授業に設定されている回はその形式となる。

教科書／テキスト

特定のものは使用しない。

参考書

歴史.indd　98　　2015/03/10　15:30:54

その都度に提示する。

日本史学特講Ⅶ【講義】

小　泉　雅　弘

授業概要

嘉永６年（1853）のペリー来航によって，日本社会は未曾有の変革期に突入し，社会の質的転換をむかえることになった。本講義では，小沢鯉一郎家文書「至誠堂日記」一～十一（富士吉田市歴史民俗博物館寄託）をテキストとして使用し，史料（くずし字）を読み解きながら，筆者である御師・小沢志摩の情報収集と思想形成について検討する。さらに，「至誠堂日記」から日本社会の変動のようすを明らかにしたい。

到達目標（ねらい）

富士信仰の御師の「至誠堂日記」を素材として，幕末期日本社会の実像と特質を究明する。あわせて史料を踏まえた日本史研究の方法論を養成する。

授業スケジュール

第１回　ガイダンス
第２回　以降本年度は「至誠堂日記」二（嘉永７年３月～）を解読し，歴史的背景や問題点を講義する。受講にあたっては，必ず予習すること

上記の他に，課題授業として，長野県佐久市と静岡県下田市において古文書調査（３泊４日程度）を実施する。

準備学習

富士信仰に関する理解を深めておくこと。史料中の人名・地名を調べて授業にのぞむこと。

成績評価の方法

総合的評価100％
授業態度，読解力，討論の内容などを総合的に加味して評価する。

履修上の留意点

熱意を持って授業にのぞむこと。

教科書／テキスト

史料をコピーして配布する。

参考書

明治維新史学会編『明治維新と文化』（吉川弘文館，2005年）
岩科小一郎『富士講の歴史』（名著出版，1983年）
平野榮次著作集Ⅰ『富士信仰と富士講』（岩田書院，2004年）

日本史学演習Ⅶ【演習】

小　泉　雅　弘

授業概要

時代は幕末から明治期を対象とし，受講者が発表を行い，近代国家形成過程についての理解を深める。

到達目標（ねらい）

発表を通じて，史料批判・史料解釈・史料操作などの基本的な歴史研究の方法論を身につけ，論理的な思考力を養成することを目的とする。

授業スケジュール

具体的な内容は，受講者の研究テーマにあわせて決定する。
第１回　ガイダンス
第２～10回　論文講読発表
第11～17回　研究史の整理
第18～23回　史料紹介（解釈と研究史における位置づけ）
第24～30回　個人研究発表

上記の他に，課題授業として，長野県佐久市と静岡県下田市において古文書調査（３泊４日程度）を実施する。

準備学習

多くの史料・論文を精読すること。

成績評価の方法

総合的評価100％
授業における発表や討論の内容などによって総合的に評価する。

履修上の留意点

熱意を持って授業にのぞむこと。

教科書／テキスト

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

日本史学特講Ⅷ【講義】

熊　本　史　雄

授業概要

本講義では，近現代日本の政治と外交に関する考察を深めるとともに，修士論文執筆を視野に収めて，当該分野に対する歴史像の構築を図るよう各自が努めることとする。

到達目標（ねらい）

具体的には，受講生が自らの問題関心に沿ってテーマを選び報告する，という形式で進めていく。現時点では，『日本の外交』（全５巻，岩波書店，2013年）を予定しているが，最終的には，受講生と相談しながら講読対象となる論集や史料集を選定する。

授業スケジュール

第１回　オリエンテーション（授業の進め方，講読文献・史料等の決定，前期の報告順序の決定）
第２回　近代日本の外交に関する研究動向の整理
第３～15回　文献・史料の講読と解説，討論
第16回　オリエンテーション（後期の報告順序の決定）
第17～30回　文献・史料の購読と解説，討論

準備学習

予習しておくこと（講読対象文献・史料を読んでから参加すること）。

成績評価の方法

平常点100％
平常点（報告内容，討論への貢献・参加状況，課題への取り組み姿勢など）を総合的に判断して評価する。

教科書／テキスト

第１回目の授業時において決定する。

参考書

適宜紹介する。

日本史学演習Ⅷ【演習】

熊　本　史　雄

授業概要

本講では，修士論文を執筆するための力を養成することを目標とする。すなわち，史料の収集と調査方法，史料の解読力・分析力を身につけるとともに，それらを基に各自がテーマに沿った歴史像を構築し，実証的に論述する力を身につけることを目標とする。

到達目標（ねらい）

具体的には，受講生の問題関心に沿ったテーマを設け，受講生の報告を中心に授業を進める。受講生は，報告対象となる分野の先行研究を整理・評価した上で，自らの問題関心を深めることに努める。さらに，報告者のプレゼンテーションに基づいて全体で考察・討議する。

授業スケジュール

第１回　オリエンテーション（授業の進め方，前期の報告順序の決定）
第２～15回　研究報告と討論
第16回　オリエンテーション（後期の報告順序の決定）
第17～30回　研究報告と討論

準備学習

予定されている報告テーマに関し，報告者以外の受講生も概要を踏まえておくこと。とくに，報告者に既発表論文がある場合は，他の受講生はそれらをあらかじめ読んでから参加すること。

成績評価の方法

平常点100％

歴史.indd　99　2015/03/10　15:30:54

平常点（報告内容，討論への貢献・参加状況，課題への取り組み姿勢など）を総合的に判断して評価する。

教科書／テキスト

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

日本史学特講Ⅸ【講義】

宇佐美　正　利

授業概要

日本古代史に関する講義であるが，最初は講義中心に進めるが，学生にも史料の読み下し・語句説明を行ってもらう。

到達目標（ねらい）

日本古代仏教史の知識を会得するとともに，古代史史料の読解力も身につけさせる。

授業スケジュール

第１回　授業のガイダンス
第２回　日本古代仏教史①　仏教伝来
第３回　日本古代仏教史②　飛鳥仏教
第４回　日本古代仏教史③　白鳳仏教
第５回　日本古代仏教史④　奈良仏教
第６回　日本古代仏教史⑤　奈良仏教
第７回　日本古代仏教史⑥　平安仏教
第８回　日本古代仏教⑦　平安仏教
第９回　『東大寺要録』供養章①
第10回　『東大寺要録』供養章②
第11回　『東大寺要録』供養章③
第12回　『東大寺要録』供養章④
第13回　『東大寺要録』供養章⑤
第14回　『東大寺要録』供養章⑥
第15回　『東大寺要録』供養章⑦
第16回　『東大寺要録』供養章⑧
第17回　『東大寺要録』供養章⑨
第18回　『東大寺要録』供養章⑩
第19回　『東大寺要録』供養章⑪
第20回　『東大寺要録』供養章⑫
第21回　『東大寺要録』供養章⑬
第22回　『東大寺要録』供養章⑭
第23回　『東大寺要録』供養章⑮
第24回　『東大寺要録』供養章⑯
第25回　『東大寺要録』諸院章①
第26回　『東大寺要録』諸院章②
第27回　『東大寺要録』諸院章③
第28回　『東大寺要録』諸院章④
第29回　『東大寺要録』諸院章⑤
第30回　『東大寺要録』諸院章⑥

準備学習

第９回以降は，それぞれ受講生に担当箇所をあてるので，その個所に対するレジメを作成してくるように。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

教科書／テキスト

『東大寺要録』（国書刊行会）

参考書

第１回の授業時に説明する。

日本史学特講Ⅹ【講義】

林　　譲

授業概要

「花押と筆跡の史料学―モノをみる・モノからみる―」をテーマに，古文書，特に中世武家文書の読解を講義と演習の形式で行う。本年度は，中世文書のうちでも，鎌倉幕府を開いた源頼朝が発給した文書を中心とする『島津家文書』，ながらく信濃守護を務めた小笠原氏に伝来した『小笠原文書』，地頭領主から戦国武将へ発展した熊谷氏の『熊谷家文書』，また室町幕府歴代将軍の花押と筆跡などに関する諸問題を小テーマとして設定する。『島津家文書』等の源頼朝文書や『小笠原文書』『熊谷家文書』『醍醐寺文書聖教』，また室町幕府歴代将軍の花押については，先行研究がありながら，必ずしも十分な検討・研究がなされているとは言い難い。特に，花押や筆跡，また料紙の紙質など，古文書の形態論的研究については未解決の問題が多い。そこで，写真版コピーに基づいた研究を進め，標記の課題の可能性を探ることとしたい。その結果として，古文書を史料として活用する上での基礎的な態度・技法を身につけること，各自の論文の作成に結びつく実践的な研究能力を養成することを目標とする。

到達目標（ねらい）

上記「授業概要」でも記したように，古文書を史料として活用する上での基礎的な態度・技法を身につけること，各自の論文の作成に結びつく実践的な研究能力を養成することを目標とする。

授業スケジュール

年度当初は，何故問題にする必要があるかなどの研究史上の問題点を講義し，問題点を認識した上で，事前に配布した「源頼朝文書」（『島津家文書』）『小笠原文書』『熊谷家文書』『醍醐寺文書聖教』の原本写真版コピーを各自分担して調査し，それに基づいた報告と講義，及び討論を行う。上島有氏『中世花押の謎を解く―足利将軍家とその花押―』を素材として，室町幕府歴代将軍の花押について研究する。そのほか講義の合間に，自らの研究課題とするテーマに関して，標記のテーマに即して再構成した小報告を行ってもらう。

１，　導入
２，　史料とは何か―古文書形態論研究の重要性―
３～５，文書料紙の問題
６～10，花押研究の重要性
11～14，筆跡研究の重要性
15，　前期授業のまとめと課題
16，　後期授業のねらい
17～24，「源頼朝文書」（『島津家文書』）『小笠原文書』『熊谷家文書』『醍醐寺文書聖教』調査・報告・講義，及び討論
25～29，再び古文書形態論研究の重要性
30，　後期授業のまとめと課題

準備学習

講義に関する史料・論文等を事前に配布するので，辞書等を利用して調べておくこと。その際には，「ジャパンナレッジ」などのインターネット上の辞書類も活用すること。翌週の講義に関する事前準備にもつながるので，復習を行っておくこと。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

上記の講義目標の達成度により成績評価を行う。報告の事前準備，授業における積極的な取組み，前後期のレポート提出などを判断基準とする。

履修上の留意点

毎回出席の上，講義内容に関して，必ずノートに筆記すること。

教科書／テキスト

「源頼朝文書」（『島津家文書』）『小笠原文書』『熊谷家文書』『醍醐寺文書聖教』原本写真版コピーに関しては事前にプリントを用意し配布するほか，授業においては各自が作成したレジュメを使用する。また講義に即した資料を，その都度配布する。

参考書

相田二郎氏「鎌倉時代に於ける武家古文書の筆蹟」（『相田二郎著作集』一，昭和51年，名著出版）（『日本古文書学論集』六，昭和62年，吉川弘文館）

黒川高明氏『源頼朝文書の研究　史料編』（昭和63年，吉川弘文館）

林譲「源頼朝の花押について－その形体変化と治承・寿永

歴史.indd　100　　2015/03/10　15:30:54

年号の使用をめぐって－」（『東京大学史料編纂所研究紀要』第６号，平成８年）
『信濃史料』（1941～69年，信濃史料刊行会）
『新編信濃史料叢書』第12巻（1975年，信濃史料刊行会）
『東京大学史料編纂所影印叢書・島津家文書　歴代亀鑑・宝鑑』（2007年，東京大学史料編纂所）
『東京大学史料編纂所影印叢書・小笠原文書』（2008年，東京大学史料編纂所）
『熊谷市史』資料編２古代･中世（2013年，埼玉県熊谷市）
上島有氏『中世花押の謎を解く－足利将軍家とその花押－』（2004年，山川出版社）
そのほかの参考文献等については，必要に応じて指示する。

日本史学特講Ⅺ【講義】

太　田　尚　宏

授業概要

江戸幕府の政治のあり方と民間社会との関係を軸として，近世国家の成熟過程について解説する。また，都市江戸を事例とした社会史・文化史の様相についても，適宜言及していく予定である。

到達目標（ねらい）

江戸時代の歴史事象について正確に理解し，分析に必要な知識・能力を身につけるとともに，歴史における事実関係を解明するのに不可欠な文献史料（古文書・活字史料）の読解能力を培うことを目標とする。

授業スケジュール

第１回　徳川の「平和」―江戸時代とはどういう時代か―
第２回　石高制の社会（その１）
第３回　石高制の社会（その２）
第４回　近世的村落の形成―「自力」から「行政」へ―
第５回　「百姓株」と「証文」―生産力の向上と文字文化の浸透―
第６回　参勤交代の社会史的意義
第７回　江戸の捨子・迷子と生類憐み政策
第８回　元禄時代の武士たち
第９回　吉宗政権の誕生―近世国家の質的転換―（その１）
第10回　吉宗政権の誕生―近世国家の質的転換―（その２）
第11回　江戸周辺地域の植樹政策（その１）
第12回　江戸周辺地域の植樹政策（その２）
第13回　森林から見た享保改革（その１）
第14回　森林から見た享保改革（その２）
第15回　吉宗政権の危機管理政策―飢饉・洪水・流行病―
第16回　田沼政権と民間経済―消費文化の基底―（その１）
第17回　田沼政権と民間経済―消費文化の基底―（その２）
第18回　江戸の町と町政―「九尺二間」の暮らし―
第19回　江戸の「食」文化―酒食の大衆化と「おごり」の感覚―
第20回　川柳と噺本―「うがち」観の発達―
第21回　三馬と京伝―戯作文学と商品広告―
第22回　庶民の反乱と政権交代―天明の江戸打ちこわしと黄表紙―（その１）
第23回　庶民の反乱と政権交代―天明の江戸打ちこわしと黄表紙―（その２）
第24回　民間依存の改革政治―寛政期の都市政策―
第25回　江戸へ向かう農民たち―都市江戸の人口問題―
第26回　江戸の「悪所」と風俗―芝居町と吉原―
第27回　「出府日記」の世界―江戸滞在者の消費行動―
第28回　墓標なき墓地の光景―江戸の葬送事情―
第29回　幕末江戸の「戦時体制」―英国軍艦の渡来と「あわて絵」―
第30回　まとめ

準備学習

日本近世史（織豊政権から明治初年まで）に関する概説書・論文・史料などを読み，研究に必要な基本的知識を身につけておくこと。

成績評価の方法

レポート60％，平常点40％

教科書／テキスト

特に指定せず，適宜，資料プリントを配布する予定。

日本史学特講Ⅻ【講義】

小　林　和　幸

授業概要

近代日本史に関わる様々な一次史料（政治家の日記，書翰，公文書など）を読解すると共にその史料を詳細に検討する。また参加者各自の研究報告を行い，参加者による質問ならびに討議を行う。

到達目標（ねらい）

近代日本史研究の方法を学び，近代日本史に関する理解を深め，各自の研究の進展をはかる。また，近代日本史料（特に「くずし字」）を読みこなせ，そうした史料を活用して，論理的に日本近代史を叙述し得る力をつけることを目標とする。

授業スケジュール

参加者各自の問題関心に考慮して，国立国会図書館憲政資料室，独立行政法人国立公文書館，宮内庁書陵部などの史料を，講読史料として取り上げ，参加者による精読，報告，討議をおこなう。また，随時，参加者の各自の問題意識にそった研究報告や書評を行ってもらい，全員で討議し，各自の研究の進展を図る。

1　「授業計画」オリエンテーション
2　近代政治家の史料について
3　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料１）
4　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料２）
5　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料３）
6　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料４）
7　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料５）
8　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料６）
9　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料７）
10　近代政治家の史料を読む（憲政資料室所蔵史料８）
11　前期：受講生の研究報告１
12　前期：受講生の研究報告２
13　前期：受講生の研究報告３
14　前期：受講生の研究報告４
15　前期：受講生の研究報告５
16　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料１）
17　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料２）
18　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料３）
19　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料４）
20　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料５）
21　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料６）
22　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料７）
23　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料８）
24　近代政治家の史料を読む（国立公文書館ほか所蔵史料９）
25　後期：受講生の研究報告１
26　後期：受講生の研究報告２
27　後期：受講生の研究報告３
28　後期：受講生の研究報告４
29　後期：受講生の研究報告５
30　まとめ

準備学習

歴史.indd　101　　2015/03/10　15:30:54

配布テキストについて事前に解読するなどの準備が必要になる。

成績評価の方法

レポート20%，平常点80%

履修上の留意点

授業では，積極的に発言し，各自の研究能力の向上に努めて欲しい。

教科書／テキスト

適宜配布する。

参考書

授業の中で指示する。

アーカイブズ論【講義】

高　橋　　実

授業概要

組織・団体・個人などが様々な活動の過程で作成し，授受し，管理してきたレコーズ（文書記録）のうち，後の活用のため保存するアーカイブズ（記録史料）と，それを保存公開するアーカイブズ（文書館）について学ぶ。

1　アーカイブズとは何か。記録史料を保存する文書館の機能，およびその専門職員（アーキビスト）の役割を学ぶ
2　アーカイブズを引き継ぎないし収集し，整理・保存して閲覧公開するために必要な基礎的理論と技法を学ぶ
3　アーカイブズの特質を，それを生み出す社会との関わりで考察する
4　アーカイブズ論の到達点と課題を学ぶ

パワーポイントによる講義および受講生の報告・討議により進める。

到達目標（ねらい）

アーカイブズに関する基礎理論を学び，記録史料を取り扱うのに必要な知識と技能を修得する。

授業スケジュール

第１回　　オリエンテーション
第２～３回　アーカイブズとアーカイブズ学
第４～５回　アーカイブズ（文書館）論１基礎・法制篇
第６～７回　アーカイブズ論２歴史篇　前近代
第８～９回　アーカイブズ論３歴史篇　近現代
第10～11回　アーカイブズ論４現状と課題
第12～13回　アーカイブズ（記録史料）論１総論・地域史料
第14～15回　アーカイブズ論２行政・企業・学校史料
第16～17回　アーカイブズ論３文書群と構造
第18～19回　記録史料管理プログラムの設計と実際
第20～21回　記録史料調査・整理の原則と方法
第22～23回　文書の引継・収集と評価・選別
第24回　　記録史料の保存・修復・活用
第25回　　公文書館法・公文書管理法の意義と課題
第26～27回　補講への構え
第28回～　　講義のまとめ

準備学習

アーカイブズに関する文献を読み，基礎的知識を準備する。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

報告・討論などの平常点による。

教科書／テキスト

開校時に指示する。

参考書

安藤正人『記録史料と現代』（吉川弘文館）1998年

国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上・下巻（柏書房）2003年

全国歴史史料保存利用機関連絡協議会編『日本のアーカイブズ論』（岩田書院）2003年

その他，適宜指示する。

記録史料管理論【講義】

中野目　　徹

授業概要

本講では，主として近代日本の歴史公文書等を対象に，それらがどのように発生し，保存され，利用に供されるかという，記録史料の管理（archival administration）の問題を取り上げる。その際に，古文書学や記録史料学（文書館学，アーカイブズの科学）の方法に学びつつ，歴史学の補助分野であるとともに，独自の研究領域を有する史料学の構築を意識しながら進めたい。

今年度は，公文書管理法の施行状況を批判的に検討しつつ，『アーカイブズ学研究』『記録と史料』『アーカイブズ』及び地方自治体公文書館紀要，大学文書館紀要などのなかから近代日本の歴史公文書等に関する論考を取り上げて検討を加えていくほか，記録史料の管理をめぐる最新の問題を適宜紹介し，議論を重ねていきたい。これらを通して，史料に関する認識を深めてもらうことが，本講のねらいである。

到達目標（ねらい）

今日における記録史料管理の現状と問題点を的確に理解するとともに，有効な批判を加えられる各自なりの視点を獲得すること。

授業スケジュール

第１回　導入－本講の課題と方法－
第２回　記録史料をめぐる最近の動向
第３回　公文書管理法の逐条解釈
第４回　公文書管理法の問題点
第５回　公文書管理法改正の方向性
第６回　公文書館法と国立公文書館法
第７回　行政機関情報公開法その他関連法令
第８回　国の機関における公文書管理
第９回　国立公文書館における公文書管理
第10回　国立公文書館等における公文書管理
第11回　国立大学法人の公文書管理
第12回　筑波大学の事例
第13回　その他の国立大学法人の事例
第14回　私立大学の場合
第15回　前期の総括
第16回　後期の導入
第17回　地方自治体における記録史料をめぐる諸問題
第18回　地方自治体における公文書管理
第19回　公文書管理条例の制定事例（都道府県の場合）
第20回　公文書管理条例の制定事例（市町村の場合）
第21回　地方公文書館における公文書管理（都道府県の場合）
第22回　地方公文書館における公文書管理(市町村の場合)
第23回　土地改良区の文書管理
第24回　自治体史編纂事業から公文書館へ（都道府県の場合）
第25回　自治体史編纂事業から公文書館へ(市町村の場合)
第26回　情報公開（個人情報保護）と記録史料の管理（国の場合）
第27回　情報公開（個人情報保護）と記録史料の管理（地方自治体の場合）
第28回　地方自治体における公文書管理の方向性
第29回　後期の総括
第30回　全体の総括

準備学習

事前に指示のあった事項については，各自の準備学習が必要になる。

成績評価の方法

平常点80%，口述試験20%

平常点を基本にして，適宜口述試験を行なって評価する。

履修上の留意点

毎回出席し，積極的に議論に加わってほしい。

教科書／テキスト

歴史.indd　102　　2015/03/10　15:30:54

中野目徹『近代史料学の射程』（弘文堂オンデマンド版）￥6,800
中野目徹・熊本史雄編『近代日本公文書管理制度史料集』（岩田書院）￥24,000
中野目徹『公文書管理法とアーカイブズ』（岩田書院）￥1,600

参考書

講義のなかで適宜指示する。

史料情報管理学研究【講義】

国文学研究資料館

授業概要

近年の歴史学研究では，歴史資料として従来の古文書・古記録はもとより絵画・金石文・映像・コンピュータ等あらゆる物が活用されるとともに，史資料の整理・保存の問題が論議されてきている。また，公私の諸機関で現在も作成されている文書等をいかに取捨選択して文化遺産としていくかが課題となっている。こうした中で昭和62年に公文書館法，平成11年に国立公文書館法が成立し，国はもとより26の都道府県に文書館が設置され，市町村においても設置が進められている。このような状況のなかで，文書館に従事する専門職員（アーキビスト）の養成制度の確立の論議がされている。実際には国文学研究資料館（東京都立川市緑町10-3）の史料管理学研修会の長期研修課程を履修する（前期４週間・後期４週間程度の集中講義形式）。４単位が認定される。

※なお，同研修の申し込み受付が年度の初めにあるので留意すること。詳しくは教務部⑤番窓口まで。

到達目標（ねらい）

大学共同利用機関及びそれに準ずる研究協力機関での講座や研修等を履修し，これらの問題に対応できうるようにしたい。

授業スケジュール

実施要項を確認すること。

準備学習

実施要項を確認すること。

成績評価の方法

レポート100％
実施要項を確認すること。

東洋史学特講Ⅰ【講義】

石　井　　仁

授業概要

魏晋南北朝時代の地方行政について，都督制度ならびに都督府の成立過程を中心に検討を加える。１）都督に先行する諸制度の展開をふまえつつ，２）軍師（軍司）や参軍事など，都督府を構成した諸官職の起原を探ることによって，都督府の成立過程を明らかにする。

到達目標（ねらい）

（１）研究史の整理について理解を深める。（２）史料の読解について理解を深める。（３）以上のような能力を高め，自らの研究に応用できるようにする。

授業スケジュール

第１回　六朝都督制研究の現状と課題（１）
第２回　六朝都督制研究の現状と課題（２）
第３回　六朝都督制研究の現状と課題（３）
第４回　六朝都督制研究の現状と課題（４）
第５回　六朝都督制研究の現状と課題（５）
第６回　基本史料の再検討―使持節と仮節（１）
第７回　基本史料の再検討―使持節と仮節（２）
第８回　基本史料の再検討―使持節と仮節（３）
第９回　基本史料の再検討―使持節と仮節（４）
第10回　基本史料の再検討―使持節と仮節（５）
第11回　都督府の成立（１）
第12回　都督府の成立（２）
第13回　都督府の成立（３）
第14回　都督府の成立（４）
第15回　都督府の成立（５）
第16回　軍師と軍師祭酒（１）
第17回　軍師と軍師祭酒（２）
第18回　軍師と軍師祭酒（３）
第19回　軍師と軍師祭酒（４）
第20回　軍師と軍師祭酒（５）
第21回　参軍事の発達（１）
第22回　参軍事の発達（２）
第23回　参軍事の発達（３）
第24回　参軍事の発達（４）
第25回　参軍事の発達（５）
第26回　随府とその周辺（１）
第27回　随府とその周辺（２）
第28回　随府とその周辺（３）
第29回　随府とその周辺（４）
第30回　随府とその周辺（５）

準備学習

開講直後に配付する参考文献一覧，および毎回配付する資料プリントを十分に活用し，基本文献，および基本史料について，予習・復習を進めること。

成績評価の方法

レポート50％，平常点50％

履修上の留意点

魏晋南北朝史研究の基本問題（貴族制，均田制など），あるいは中国の官僚制度，政治・軍事制度などに関する基礎知識については，専門の論著などを通して，事前に自らの責任で習得しておいて欲しい。

教科書／テキスト

使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

参考書

宮崎市定『九品官人法の研究』（東洋史研究会，1956年），嚴耕望『中国地方行政制度史』乙部上冊・下冊「魏晋南北朝地方行政制度」（中央研究院歴史語言研究所専刊45A･B，1963年，台北），小尾孟夫『六朝都督制研究』（渓水社，2001年）など。また，開講時に参考文献一覧を配付するほか，随時紹介する。

東洋史学演習Ⅰ【演習】

石　井　　仁

授業概要

東洋史関係の修士論文の作成に関わる研究指導をおこなう。各自の研究の進捗状況を見ながら，先行研究・参考文献などに関する研究発表，修士論文の構想発表を課し，問題点・修正点を確認しつつ，修士論文の作成をめざす。

到達目標（ねらい）

修士１年は修士論文のテーマを決定し，作成に至る工程を策定する。修士２年は修士論文を作成する。

授業スケジュール

受講者による研究発表を輪番でおこなう。

準備学習

修士１年は卒業論文の課題・問題点を再確認し，修士論文の作成に向けて，関連する論著・史料を収集しておくこと。修士２年は前年度の演習における研究発表の内容，およびその際に参照した論著・史料を再確認しておくこと。

成績評価の方法

平常点100％

教科書／テキスト

使用しない。

参考書

随時紹介する。

歴史.indd　103　　2015/03/10　15:30:54

東洋史学特講Ⅱ【講義】

中　村　　淳

授業概要

モンゴル時代史を扱う。Szerb Jánosの論文“Some Glosseson the Oeuvre of Bla-ma 'Phags-pa Ⅰ－Ⅳ”（1983-1988）を講読しながら講義したい。

到達目標（ねらい）

受講者には，英文読解能力の向上はもとより，モンゴル時代のチベットをめぐる諸問題についての理解を深め，基本的な史料の扱い方を修得してもらいたい。

授業スケジュール

モンゴル時代史が「世界的な広がり」を持っているという事実を実感してもらうためにも，西はヨーロッパ，東は朝鮮半島・日本に残る史料を実際に提示しつつ講義を進めていきたい。受講者には，漢文・英語などの読解作業に可能な限り関わってもらう。

準備学習

講義で扱う論文等については事前に配布するので，授業の進度に合わせて読んでくること。

成績評価の方法

レポート20%，平常点80%

出席点に加え，レポートを課してその評価を加味し，評価する。

履修上の留意点

出席点に加え，レポートを課してその評価を加味し，評価する。

教科書／テキスト

必要な資料は基本的に授業時に配布する。

参考書

必要な資料は基本的に授業時に配布する。

その他

なおこの授業では，30回の内，数回の課題授業を実施する。課題や実施形式等は第１回目の講義の際に説明する。

東洋史学演習Ⅱ【演習】

中　村　　淳

授業概要

元・釈念常の著した『佛祖歴代通載』を取り上げる。同書は，宋代・元代の「中国仏教史」を研究する際の根本史料のひとつとされる。本演習では，至正刊本をテキストとし，モンゴル時代に関わる部分を講読する。可能であれば，敦煌莫高窟から発見されたウイグル語の写本についても扱いたい。参加者は，担当箇所について，大正蔵本等との異同を確認・考証した結果に加え，『元史』や各種文集等からの関連データを提示して，宗教史的側面からだけではない，多角的な分析を加えた報告を行なう。

到達目標（ねらい）

そうした作業を通して，モンゴル時代の王権と宗教の諸相について考察し，同時に，モンゴル時代史の研究において必要な文献学・文献史学の技術の一端を身に付けてもらうことを目的としている。

授業スケジュール

授業の最初に，作業方法や基本文献等について，確認をかねたガイダンスを行なう。その後は１年間，実際に発表をくり返し，その都度指導していく方法を採る。また，年に２度ほど修論に向けた中間報告をしてもらう。

準備学習

毎回必ず予習して臨むこと。使用すべき工具書については，最初の授業時に指示する。

成績評価の方法

平常点100%

演習時の発表・報告によって評価する。

教科書／テキスト

『佛祖歴代通載』の諸版本および関連文献の大部分は本学図書館に所蔵されている。

参考書

『佛祖歴代通載』の諸版本および関連文献の大部分は本学図書館に所蔵されている。

その他

なおこの授業では，30回の内，数回の課題授業を実施する。課題や実施形式等は第１回目の講義の際に説明する。

東洋史学特講Ⅲ【講義】

金　子　修　一

授業概要

「東アジア世界の諸問題」 唐代までの中国史及び日本古代史において，1970年代までに西嶋定生氏の提示した「東アジア世界」の観点は，その後の研究に大きな影響を与えた。今日におけるその批判も含め，「東アジア世界」論の概要や問題点を解説する。

到達目標（ねらい）

西嶋氏以前の「東アジア世界」論や西嶋氏の「冊封体制」「東アジア世界」の概念の理解を深める。さらに，西嶋氏の「冊封体制」「東アジア世界」論の問題点や，研究の進展に対応した最近の批判的な論点についても理解させる。また，歴史学の研究には研究史の理解と史料読解の能力の向上とが欠かせない。近年では「梁職貢図」に関する新史料の紹介や，白村江の戦いの後に日本に来た百済鎮将の使者禰軍の墓誌など，古代東アジア世界に関係する注目すべき史料の発見もあった。さらに，周知の『魏志』倭人伝や『宋書』倭国伝についても，東アジア世界の観点を導入することによって，より多角的な読解が可能となる。授業の後半では新しい研究情況の紹介も含めて，史料解釈の能力の向上を図りたい。

授業スケジュール

第１～２回　導入
第３～４回　初期の東アジア世界論
第５～７回　西嶋定生氏の東アジア世界論
第８～９回　堀敏一氏の東アジア世界論
第10～12回　西嶋・堀両氏の東アジア世界論を対比した場合の問題点
第13～15回　東アジア世界論に関する最近の動向
第16～17回　東アジア世界論に関係する史料の紹介
第18～19回　「梁職貢図」及びそれに関係する新史料
第20～21回　白村江の戦い前後の日・唐・朝鮮三国の関係と禰軍墓誌
第22～25回　禰軍墓誌及びこれに関連する墓誌
第26～29回　『魏志』倭人伝及び『宋書』倭国伝について
第30回　総括

準備学習

漢六朝・隋唐史に関する概説書・入門書レベルの知識は，あらかじめ身につけておくこと。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

但し，出席者の少ない時は平常点のみ（100%）とする

履修上の留意点

中国前近代史では，漢文史料の読解能力を身につけることが重要である。そのためには，平凡ではあるが毎回の出席を心掛けること。

教科書／テキスト

金子修一『隋唐の国際秩序と東アジア』名著刊行会，2001年１月

参考書

李成市『東アジア文化圏の形成』山川出版社世界史リブレット，2000年３月

鈴木靖民・金子修一・石見清裕・浜田久美子編『訳註日本古代の外交文書』八木書店，2014年２月，10,000円+消費税

歴史.indd　104　　2015/03/10　15:30:54

東洋史学特講Ⅳ【講義】

宮　嵜　洋　一

授業概要

人間の社会関係に基づいて歴史を考えた場合，未だ唯物史観による発展段階は，時代区分の上で大きな意味を持つが，同時にそれに対する批判も多い。環境史の追求がそれに替わりうると言われつつも，その方法論は確立しているとは言い難く，また現在の歴史研究の中で注目されているとも言い難い。本講義は中国環境史の先行研究や，生態環境に言及する史料を検討し，環境についての分析方法を再考してゆく。

到達目標（ねらい）

歴史を考える際に，自然環境をどのように扱うべきか，またどのような方法で人間以外のものを歴史学の中で扱うのか，各人が熟考し，自分なりに理解する契機としたい。

授業スケジュール

本講義は，教員による授業と文献講読及びそれに伴う討論によって組み立てる。それぞれの項目毎に，授業，文献についての質疑，ディスカッションという順番で進めてゆく。講義の項目は以下の通りである。

1．導入－環境と歴史－
2．開発と環境
3．中国の森林
4．水利と環境
5．資源と環境
6．災害と自然
7．人口問題
8．近代と環境
9．まとめ－環境史研究の方法－

※①「導入」と「まとめ」は教員による講義のみ行う
※②２～８の各項目は，それぞれ４回分を目安とするが，内容によっては増減することもある。

準備学習

現在我々が直面している環境問題について，文献等を通して知識を得ておくこと。現在の問題を過去の出来事を通して分析することも歴史学の大きな役割である。

履修上の留意点

自分の考えを，自分の言葉で表現することが重要である。ディスカッションの際の積極的な発言を期待する。

成績評価の方法

レポート50%，質疑・ディスカッションの際の発言50%

教科書／テキスト

特に使用しない。必要な場合は資料プリントを配布する。

参考書

岩波講座『開発と文化』全７巻（岩波書店1997～1998),『講座文明と環境』全26巻（朝倉書店,2008）は一読して欲しい。その他の参考資料については，講義の中で提示する。

東洋史学特講Ⅴ【講義】

杉　山　清　彦

授業概要

一般に「最後の中華王朝」と理解されている清朝は，支配の中枢に目を向けてみるならば，マンジュ（満洲）人が皇帝となって広大・多様な領域を統合した国家・「大清帝国」とみることができる。本講義では，この帝国を，時系列的な中国史上の一王朝「清朝」としてではなく，16～17世紀の時代状況を背景として段階的に形成・拡大していった軍事権力を核とする「大清帝国」として捉え，その形成の過程と構造の特質，さらに歴史的位置について検討する。具体的には，支配層たるマンジュ人の組織である八旗に焦点を当てて，その内部構造と形成・整備過程について考察するとともに，軍事力によって国家形成を果した新興軍事政権として，比較史的検討を行なう。

到達目標（ねらい）

ユーラシア東方を支配した広域・多元的帝国としての「大清帝国」の形成過程と支配構造を理解するとともに，日本・世界の諸政権との比較史的検討を通じて，世界史的な視野を養う。

授業スケジュール

第１回　ガイダンス
第２回　中央ユーラシアの世界（１）
第３回　中央ユーラシアの世界（２）
第４回　中央ユーラシアの世界（３）
第５回　ジュシェン＝マンジュの社会とモンゴル・漢人（１）
第６回　ジュシェン＝マンジュの社会とモンゴル・漢人（２）
第７回　ジュシェン＝マンジュの社会とモンゴル・漢人（３）
第８回　マンジュ＝大清グルンの勃興と発展（１）
第９回　マンジュ＝大清グルンの勃興と発展（２）
第10回　マンジュ＝大清グルンの勃興と発展（３）
第11回　八旗制の構造（１）
第12回　八旗制の構造（２）
第13回　八旗制の構造（３）
第14回　八旗制の構造（４）
第15回　予備日
第16回　中央ユーラシア国家としての大清グルン（１）
第17回　中央ユーラシア国家としての大清グルン（２）
第18回　中央ユーラシア国家としての大清グルン（３）
第19回　大清グルンの比較史的検討（１）
第20回　大清グルンの比較史的検討（２）
第21回　大清グルンの比較史的検討（３）
第22回　大清グルンの比較史的検討（４）
第23回　大清グルンの比較史的検討（５）
第24回　大清グルンの比較史的検討（６）
第25回　大清グルンの比較史的検討（７）
第26回　大清グルンの比較史的検討（８）
第27回　近世軍事政権としての大清帝国と江戸幕府（１）
第28回　近世軍事政権としての大清帝国と江戸幕府（２）
第29回　近世軍事政権としての大清帝国と江戸幕府（３）
第30回　予備日

準備学習

講義で提示する漢文史料や紹介する参考文献を読んで臨むことが望まれる。

成績評価の方法

レポート70%，平常点30%
複数回課すレポートを基本とし，平常点を参考とする。

参考書

参考文献は講義中適宜紹介する。全般にわたるものとして，『清朝とは何か』（別冊・環⑯，藤原書店,2009）・『紫禁城の栄光』（岡田英弘・神田信夫・松村潤著,講談社学術文庫，2006），日本との比較については杉山清彦「大清帝国と江戸幕府―東アジアの二つの新興軍事政権―」『世界史を書き直す日本史を書き直す』（懐徳堂記念会編,和泉書院，2008，所収）を参照。

東洋史学特講Ⅵ【講義】

須　江　　隆

授業概要

本年度は，「中国宋代史料研究」というテーマで授業をおこなう。中国史上の宋代は，唐宋変革という言葉からも明らかなように，一大変革期であったことは間違いない。しかしこれまでは，唐代との比較から，それとの相違点ばかりが強調され，300年間余り続いた宋代の時代性の把握が充分ではなかった。そこで当時編纂された様々な史料に関する講義と史料読解演習を通じて，中国史上の宋代の時代性と歴史性について学ぶ。

到達目標（ねらい）

この授業では，中国史上の宋代の時代性と歴史性を，講義

歴史.indd　105　　2015/03/10　15:30:55

と史料読解演習を通じて理解することにより，一時代を歴史的に把握するための研究の視点･手法を実践的に修得することを目標としている。修士論文の作成に向けた一連のプロセスの一部を，中国宋代史料研究を具体的事例として身につけてほしい。

授業スケジュール

第１回　ガイダンス授業Ⅰ
第２回　中国史上における宋代
第３回　宋代基本史料解説
第４回　宋代の史料を読むために
第５回　『宋史』編纂をめぐって
第６回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅰ
第７回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅱ
第８回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅲ
第９回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅳ
第10回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅴ
第11回　『宋史』-『四庫全書草屋提要』を読む-Ⅵ
第12回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅶ
第13回　『宋史』-『四庫全書総目提要』を読む-Ⅷ
第14回　授業の中間総括
第15回　課題学習Ⅰ-訳注稿の作成-
第16回　ガイダンス授業Ⅱ
第17回　『夷堅志』について
第18回　『夷堅志』が書かれた時代
第19回　史料論としての『夷堅志』Ⅰ
第20回　史料論としての『夷堅志』Ⅱ
第21回　『夷堅志』選読Ⅰ
第22回　『夷堅志』選読Ⅱ
第23回　『夷堅志』選読Ⅲ
第24回　『夷堅志』選読Ⅳ
第25回　『夷堅志』選読Ⅴ
第26回　『夷堅志』選読Ⅵ
第27回　『夷堅志』選読Ⅶ
第28回　『夷堅志』選読Ⅷ
第29回　課題学習Ⅱ-訳注稿の作成-
第30回　授業全体の総括，課題（レポート）提出

準備学習

漢語史料訓読のための基礎知識を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

レポート60%，授業内の史料読解演習40%
年度末のレポート（60%）と授業内に担当してもらう史料読解演習（40%）により，総合的に評価をおこなう。

履修上の留意点

授業は，講義形式で進めることもあるが，史料読解のための演習形式で進める機会の方が多いので，担当が割り当てられたときには，準備を要する。

教科書／テキスト

毎時間授業時に，プリント（参考資料）を配布して授業をおこなう。授業で用いる史料読解演習用のテキストは，授業時に配布する。

参考書

参考書については，授業中に随時紹介する。

西洋史学特講Ⅱ【講義】

佐々木　真

授業概要

西洋近代史研究に際して必要な外国語文献を受講生とともに講読し，それへの解説を行う。文献は著作や論文で，次のようなものを考えている。
１）研究史を理解する上で重要なもの
２）最新の研究動向を扱ったもの
３）西洋近代史研究の方法論に関係するもの
以上から，受講生の希望を勘案したうえで，文献を決定する。

到達目標（ねらい）

講読を通じ，外国語のテクストを正確に読む能力を身につけることを目標とする。

授業スケジュール

授業はあらかじめ指名した受講生に内容についての報告をしてもらい，それに解説を加えることで進めていく。
第１回　　ガイダンス
第２回～　文献の講読

準備学習

毎回確実に予習をしてくること。

成績評価の方法

レポート30%，平常点70%
成績については，報告の内容と学年末のレポートにより決定する。

教科書／テキスト

テキストについては，授業開始時に決定し，コピーを配布する。

その他

なおこの授業では，30回の内，数回の課題授業を実施する。課題や実施形式等は第１回目の講義の際に説明する。

西洋史学演習Ⅱ【演習】

佐々木　真

授業概要

西洋史研究に必要な力を養成するとともに，各受講生の研究指導を行う。

到達目標（ねらい）

授業での指導を通じ，優れた修士論文を執筆することを目標とする。

授業スケジュール

西洋史や歴史理論に関する最新の著作を講読する。また，必要に応じ，１人につき年に何回か，受講生に各人の研究内容や修士論文の計画についての報告をしてもらいます。
第１回　　ガイダンス
第２～11回　テキストの講読
第12～13回　個別報告
第14～24回　テキストの講読
第25回～　　個別報告

準備学習

自分の報告の時はもちろん，その他の時も対象の文献をあらかじめ読み，授業で議論ができる準備をしてくること。

成績評価の方法

レポート30%，平常点70%
成績については，報告の内容と学年末のレポートにより決定します。

教科書／テキスト

使用する文献は，授業開始時に決定する。

その他

なおこの授業では，30回の内，数回の課題授業を実施する。課題や実施形式等は第１回目の講義の際に説明する。

西洋史学特講Ⅲ【講義】

大城道則

授業概要

エジプト学・古代エジプト史の基本知識を得るための文献を輪読する。修士論文の論題に関連する講義を行う。

到達目標（ねらい）

講義を通じて，古代エジプト史の基礎知識と外国語文献の読み方を学び，修士論文の作成に活かす。

授業スケジュール

受講生と相談の上，一年間のスケジュールを組む。

準備学習

講義以外の準備時間が重要であることを認識しておくこと。

歴史.indd　106　　2015/03/10　15:30:55

成績評価の方法
習熟度・習得度100％

西洋史学演習Ⅲ【演習】
大　城　道　則

授業概要
修士論文の作成指導。
到達目標（ねらい）
学術的に一定のレヴェルにある修士論文の作成を目指す。
授業スケジュール
主として受講生による研究発表。
準備学習
自主性に任せるが，修士課程の期間は短いということを常に理解しておくこと。
成績評価の方法
レポート50％，平常点50％
履修上の留意点
理由があり遅刻欠席する場合は事前に連絡すること。
教科書／テキスト
特に指定しない。
参考書
必要に応じて紹介する。

西洋史学特講Ⅳ【講義】
井　上　　文　則

授業概要
ローマ帝国期に流行したミトラス教に関する欧文文献を講読しつつ，当該宗教に関する諸問題を考える。また，受講生の研究発表も行う。
到達目標（ねらい）
西洋古代史およびその研究方法について学ぶ。
授業スケジュール
ミトラス教に関する欧文文献を読みながら，討論を進めていく。
第１回　　講義の方針とテキストについて解説する
第２回～　テキストの読解と解説を行う
また受講生の希望に応じて，研究発表と討論の機会を持ちたい。
準備学習
欧文文献を事前に読む必要がある。
成績評価の方法
レポート40％，平常点60％
出席と授業参加状況，レポート課題で判断する。
参考書
授業時に適宜指示する。

西洋史学特講Ⅴ【講義】
篠　原　　琢

授業概要
「東欧」の歴史を知ること，考えることにはどのような現代性があるだろうか。本講義では，まず「東欧」をヨーロッパ史，「近代」の境界地域として捉えることから問題を設定し，境界から，ヨーロッパ史と近代を再考する。より具体的なテーマとして，国民（国家）の生成，現代における総力戦，ジェノサイドと住民追放，国籍と難民の問題を考える。対象とするのは，主に「東欧」の北東部（今日のポーランド，ウクライナ，ベラルーシ，リトアニア，チェコ，スロヴァキア）である。授業は英語文献の輪読を主軸としながら，テキストを解釈する過程で，理解を深めるために適宜，講義を行う。
到達目標（ねらい）
東欧現代史をめぐる基本的な論点を抑え，人文地理学的断絶をもたらした歴史的条件を理解する。
授業スケジュール
第１回　ガイダンス
第２回　「東欧」を支える言説構造
第３回　オリエンタリズムと東欧
第４回　課題：ウルフ，『東欧を発明する』Larry Wolff, Inventing Eastern Europe序章の翻訳
第５回　『東欧を発明する』を読む。
第６回　トドロヴァ『バルカンを想像する』Maria Todorova, Imaging the Balkanを読む。
第７回　トドロヴァ『バルカンを想像する』
第８回　20世紀史のなかの東欧―第一次世界大戦と国民国家の成立１
第９回　20世紀史のなかの東欧―第一次世界大戦と国民国家の成立２
第10回　マゾワー，『暗黒大陸―20世紀ヨーロッパ史』Mark Mazower, The Dark Continentを読む１
第11回　マゾワー，『暗黒大陸―20世紀ヨーロッパ史』を読む２
第12回　マゾワー，『暗黒大陸―20世紀ヨーロッパ史』を読む３
第13回　マゾワー，『ヒトラーの帝国』Mazower, Hitler's Empireを読む１
第14回　マゾワー，『ヒトラーの帝国』を読む２
第15回　課題：マゾワー，『ヒトラーの帝国』で扱った部分をまとめる。
第16回　境界地域としての「ポーランド」１
第17回　境界地域としての「ポーランド」２
第18回　スナイダー，『諸国民の再構成』Timothy Snyder, Reconstruction of Nationsを読む１
第19回　スナイダー，『諸国民の再構成』を読む２
第20回　スナイダー，『諸国民の再構成』を読む３
第21回　境界地域の現代―ポーランド国家とソヴィエト権力
第22回　テリー・マーチン，『アファーマティヴ・アクションの帝国』を読む１
第23回　『アファーマティヴ・アクションの帝国を読む』２
第24回　スターリニズム・ナチズム・絶滅政策
第25回　スナイダー，『血の大地』Timothy Snyder, Bloodlandsを読む１
第26回　『血の大地』を読む２
第27回　『血の大地』を読む３
第28回　『血の大地』を読む４
第29回　東欧の現代史から何が見えるのか
第30回　課題：『血の大地』のブックレポート
準備学習
英文のテキストを配布するので，それを事前に予習すること。
成績評価の方法
平常点60％，課題（レポート，翻訳）40％

考古学特講Ⅰ【講義】
寺　前　直　人

授業概要
縄文時代から弥生時代における儀礼の継続と変質。
到達目標（ねらい）
農耕開始期（弥生時代）において，伝統的儀礼がどのような過程で，消滅し，継続していくかを実証的に論じる。対象とする考古資料は，土偶をはじめとする土製品，石棒をはじめとする石製品である。
授業スケジュール
第１回　授業の概要説明
第２回　縄文時代儀礼の研究史１
第３回　縄文時代儀礼の研究史２
第４回　縄文時代儀礼の研究史３
第５回　石棒類の分類１

歴史.indd　107　　2015/03/10　15:30:55

第６回　石棒類の分類２
第７回　石棒類の変遷
第８回　石棒類の地域差
第９回　土偶の分類
第10回　土偶の変遷
第11回　土偶の地域差１
第12回　土偶の地域差２
第13回　西日本の土偶１
第14回　西日本の土偶２
第15回　縄文時代の東西日本列島
第16回　弥生時代の儀礼研究史１
第17回　弥生時代の儀礼研究史２
第18回　弥生時代の石棒１
第19回　弥生時代の石棒２
第20回　弥生時代の石棒３
第21回　弥生時代開始期の土偶１
第22回　弥生時代開始期の土偶２
第23回　土偶と分銅形土製品１
第24回　土偶と分銅形土製品２
第25回　伝統儀礼と青銅器
第26回　銅鐸の系譜１
第27回　銅鐸の系譜２
第28回　銅鐸文様と石棒文様
第29回　儀礼の継続と断絶
第30回　総括

準備学習

縄文時代から弥生時代における土器の編年と種類を理解しておくこと。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

教科書／テキスト

特になし。

考古学演習Ⅰ【演習】

寺　前　直　人

授業概要

個別発表と質疑を通して修士論文作成のための実践的な研究方法を学ぶ。

到達目標（ねらい）

修士論文の作成のためには，研究対象を適切に選別し，分析する能力を涵養する必要がある。本演習では，個別発表とその批評をとおして，上記の能力を適切に身につけることをめざす。

授業スケジュール

第１回　概要説明
第２回　レジュメ作成の基礎１
第３回　レジュメ作成の基礎２
第４回　資料調査の基礎１
第５回　資料調査の基礎２
第６回　博物館･埋蔵文化財センターの活用方法
第７回　インターネットを利用した資料収集
第８回　報告書を利用した資料収集１
第９回　報告書を利用した資料収集２
第10回　発表１
第11回　発表２
第12回　発表３
第13回　発表４
第14回　発表総評
第15回　資料と分析方法１
第16回　資料と分析方法２
第17回　資料と分析方法３
第18回　資料調査発表１
第19回　資料調査発表２
第20回　資料調査発表３
第21回　資料調査発表４
第22回　資料撮影と実測１
第23回　資料撮影と実測２
第24回　グラフ作成法
第25回　空間分析
第26回　統計的処理
第27回　研究発表１
第28回　研究発表２
第29回　研究発表３
第30回　研究発表４

準備学習

研究テーマの候補をあらかじめ選定し，関連論文を集成しておくこと。資料についても資料館等で実見しておくことがのぞましい。

成績評価の方法

レポート50%，平常点50%

考古学特講Ⅱ【講義】

酒　井　清　治

授業概要

考古学では各地の遺跡のネットワークがどのようにつながっているかを探る方法は，モノがどのように作られ，それがどのように動いているのかを検討することにより解明できる部分が多い。そこで遺物の「生産」「流通」「消費」をテーマに掲げ，モノの生産や流通から各時代の社会の一端を取り上げ検討する。

到達目標（ねらい）

考古学の資料からどのような研究を行うことが出来るのか，資料の集め方や見方を含めて考え方を養う。

授業スケジュール

講義と受講者各自でテーマに沿った研究発表を行い，論議する。また，関連した論文を読み，受講者それぞれの見解について論議する。

第１回　　ガイダンス
第２回～　研究発表・討議

準備学習

多くの論文を読み，基礎知識と広い分野の研究に興味を持ち，視野を広げておくこと。

成績評価の方法

レポート40%，平常点20%，研究発表40%

履修上の留意点

学内だけでなく，研究会，学会へ積極的に出かけ，研究者や大学院生と交流を持ち，現在どのような研究方向にあるのか，自らの目で確かめて研究に生かしてほしい。

参考書

適宜指示する。

考古学演習Ⅱ【演習】

酒　井　清　治

授業概要

考古学は発掘した出土資料を整理し，報告書を作成することにより資料化し，それを考古学的な手法を用い研究を進め論文としてまとめていく。資料化の方法から論文への過程を会得してもらう。

到達目標（ねらい）

考古資料の観察から資料化までの技術を高め，自らの研究手法の確立を目指す。それにより研究発表や研究論文を執筆し，修士論文として完成する。

授業スケジュール

考古学は遺跡や遺物から考える学問であることから，前半は遺跡や大学・博物館・資料整理室などを回り，直接遺物などの資料を実見する。その遺跡･遺物について論議していく。また，その中から受講者の研究テーマに沿って各自が選んだ実物資料を実測・写真・文章を作成し，研究雑誌に資料紹介や論文として発表できるように指導する。さらに修士論文を

歴史.indd　108　　2015/03/10　15:30:55

完成させるための指導を行う。
第１回～20回　資料調査・研究
第21回～30回　論文指導

準備学習

授業以外の時間も，埋文センター，教育委員会，博物館へ資料収集に積極的に出かけて，自らの技術向上を目指してほしい。

成績評価の方法

レポート40%，平常点20%，発表資料40%

履修上の留意点

学内だけでなく，研究会，学会へ積極的に出かけ，研究者や大学院生と交流を持ち，現在どのような研究方向にあるのか，自らの目で確かめて研究に生かしてほしい。

参考書

適宜指示する。

考古学特講Ⅳ【講義】

土生田　純之

授業概要

本年は，古墳時代中・後期を中心として展開した横穴式石室と積石塚古墳を主たる素材として型式学的なモノ資料の見方を学ぶ。またそこから発展して，歴史学的考察に至る過程をともに考える。その際，モノ資料の特性である「国境をわたる」部分に意を注ぐ。最終的には半島と列島の相互関係に及び，古墳時代における国家形成までの道のりをあとづける。そして，考古学の有効性とともに限界をも考える。

到達目標（ねらい）

考古資料としての横穴式石室，積石塚を中心に考察する。しかし，両資料は素材であってそれらの専門的知識の獲得が主たる目的ではない。そうではなく，考古資料から歴史学的考察をする場合の留意点や考察手法を学び，考古資料を用いて自らの見解を引き出すことが出来るように訓練したい。

授業スケジュール

第１回　古墳時代概観①
第２回　古墳時代概観②
第３回　古墳時代概観③
第４回　横穴式石室研究史①
第５回　横穴式石室研究史②
第６回　横穴式石室研究史③
第７回　横穴式石室研究史④
第８回　九州系石室概観①
第９回　九州系石室概観②
第10回　畿内型石室概観①
第11回　畿内型石室概観②
第12回　列島各地の横穴式石室①
第13回　列島各地の横穴式石室②
第14回　朝鮮半島の倭系石室①
第15回　朝鮮半島の倭系石室②
第16回　高句麗の横穴式石室概観
第17回　百済の横穴式石室概観
第18回　新羅の横穴式石室概観
第19回　伽耶の横穴式石室概観
第20回　列島の積石塚①
第21回　列島の積石塚②
第22回　列島の積石塚③
第23回　列島の積石塚④
第24回　列島の積石塚⑤
第25回　列島の積石塚⑥
第26回　列島の積石塚⑦
第27回　半島の積石塚①
第28回　半島の積石塚②
第29回　積石塚から見る半島と列島の交流①
第30回　積石塚から見る半島と列島の交流②

準備学習

横穴式石室の基本文献を読んでおくこと（小田富士雄，土生田純之，柳沢一男，右島和夫等の論文）。

成績評価の方法

平常点100%

履修上の留意点

授業時には必ず意見を求め，これに答えなければならない。

教科書／テキスト

特にない。

参考書

質問があれば紹介する。

考古学特講Ⅴ【講義】

高　久　健　二

授業概要

朝鮮半島の考古学のうち，三国時代について講義する。とくに，新羅の古墳文化に焦点を当てて，大韓民国における考古学的調査・研究成果をもとに論じる。

到達目標（ねらい）

朝鮮半島における考古学的調査・研究の成果，および東アジアにおける朝鮮考古学の意義を理解することを目的とする。

授業スケジュール

第１回　講義の概要と目的
第２回　辰韓の古墳（１）
第３回　辰韓の古墳（２）
第４回　辰韓の古墳（３）
第５回　新羅の王陵（１）
第６回　新羅の王陵（２）
第７回　新羅の王陵（３）
第８回　新羅の王陵（４）
第９回　新羅周辺の古墳文化（１）
第10回　新羅周辺の古墳文化（２）
第11回　新羅周辺の古墳文化（３）
第12回　新羅周辺の古墳文化（４）
第13回　新羅と倭の交流（１）
第14回　新羅と倭の交流（２）
第15回　新羅と倭の交流（３）
第16回　新羅の横穴式石室墓（１）
第17回　新羅の横穴式石室墓（２）
第18回　新羅の横穴式石室墓（３）
第19回　新羅の横穴式石室墓（４）
第20回　統一新羅時代の王陵（１）
第21回　統一新羅時代の王陵（２）
第22回　統一新羅時代の王陵（３）
第23回　統一新羅時代の王陵（４）
第24回　新羅の都城（１）
第25回　新羅の都城（２）
第26回　新羅の都城（３）
第27回　新羅の寺院と南山の仏跡（１）
第28回　新羅の寺院と南山の仏跡（２）
第29回　新羅の寺院と南山の仏跡（３）
第30回　総括

準備学習

朝鮮考古学の概要について事前に理解しておくことをすすめる。そのためには早乙女雅博『朝鮮半島の考古学』同成社2000年や吉井秀夫『古代朝鮮墳墓にみる国家形成』京都大学学術出版会2010年などを参考にするとよい。

成績評価の方法

平常点100%

履修上の留意点

特になし。

教科書／テキスト

特になし。プリント資料を配布する。

参考書

授業時に指示する。

歴史.indd　109　2015/03/10　15:30:55

考古学特講Ⅵ【講義】

山　本　暉　久

授業概要

本講義では，縄文時代研究の目的，研究史，時代区分論，縄文土器型式の編年，縄文原体の製作実習，ならびに縄文時代文化の変遷上の特徴などについて講義・実習を行い，今後の縄文時代文化研究の展望を明らかにさせる。

到達目標（ねらい）

日本列島に栄えた独特な石器時代文化である「縄文時代文化」について多面的な視点から考察を加え，縄文時代文化研究の現状と課題についての理解を深めることを目標とする。

授業スケジュール

第１回　縄文時代文化研究の目的
第２回　研究史
第３回　時代区分・時期区分・時代観
第４回　縄文土器型式のもつ意味－型式・様式・形式と編年－
第５回　縄文原体製作実習①　縄の撚り方
第６回　縄文原体製作実習②　縄文原体の基本構造
第７回　縄文原体製作実習③　縄文原体の多様性
第８回　縄文原体製作実習④　撚合わせ・撚り戻し
第９回　縄文原体製作実習⑤　縄を編む－組紐－
第10回　旧石器文化の探求
第11回　前期旧石器ねつ造事件の真相
第12回　旧石器時代文化終末期の様相－細石器文化と神子柴・長者久保系石器群－
第13回　縄文土器の起源
第14回　早咲きの縄文文化－南九州における縄文時代初頭期の様相－
第15回　縄文時代文化の見直し－前期縄文文化と低湿地遺跡の発見－
第16回　縄文時代中期文化繁栄の基盤－中期農耕論と照葉樹林文化論－
第17回　縄文時代文化の生業基盤－あく抜き技術の獲得と半栽培－
第18回　吹上パターン現象とは何か
第19回　集団移動論と見なおし論の登場－大規模環状集落形成をめぐる評価－
第20回　廃屋墓とは
第21回　埋甕－縄文時代の出産習俗－
第22回　石棒祭祀の性格
第23回　配石遺構－配石記念物構築の意味－
第24回　柄鏡形（敷石）住居－住居構造の変化とそのもつ歴史的意味－
第25回　中期縄文文化の繁栄と衰退－環境決定論のもつ問題点－
第26回　縄文時代のコメ栽培－プラント・オパールの分析成果とその問題点－
第27回　縄文時代文化の終焉－水稲耕作技術の伝播と弥生時代文化の成立－
第28回　民族誌考古学－その問題点－
第29回　縄文時代は階層化した社会か
第30回　まとめ－縄文時代文化研究の展望－

準備学習

毎回の講義に関する関係文献について事前に読んで学習しておくこと

成績評価の方法

レポート70%，平常点30%

履修上の留意点

授業内容は内容的に連続性があるので，欠席や遅刻しないよう留意すること

教科書／テキスト

とくにない。毎回，講義のレジュメおよび関係する文献・資料のコピーを配布する

参考書

山本暉久『敷石住居址の研究』2002
六一書房刊山本暉久『柄鏡形（敷石）住居と縄文社会』2010　六一書房刊

考古学特講Ⅶ【講義】

設　楽　博　己

授業概要

弥生時代のはじまりは，日本列島において最も大きな歴史的転換の一つであった。中国や朝鮮半島からの影響を背景にしたもので，大陸的な文化要素は弥生文化の骨格をなす。一方，縄文文化もいたるところに継承されている。これまで弥生文化の研究では，縄文文化の要素の研究はなおざりにされてきた。本授業ではこの点に着目しながら，様々な観点から縄文時代の社会と弥生時代の社会を比較し，その継承関係を論じる。

到達目標（ねらい）

縄文時代と弥生時代の社会と文化の授業を通じて，それぞれの基礎的知識を獲得し，縄文時代・縄文文化とはなにか，弥生時代・弥生文化とはなにかを考え，縄文時代から弥生時代への転換が日本やアジアの歴史にとってどのような意味を持っていたのか思いめぐらすきっかけとする。

授業スケジュール

1　日本列島の分裂と統合
　1．弥生文化観の形成－鳥居龍藏と固有日本人論をめぐって－
　2．縄文時代から弥生時代へ
　3．弥生時代から古墳時代へ
　4．もう二つの日本文化ともう一つの弥生文化
2　食の体系
　5．縄文農耕と弥生農耕の違い
　6．集狩猟民的漁撈と農耕民的漁撈
　7．動物観の変遷
3　ムラの姿の変貌
　8．環状集落と環濠集落
　9．縄文・弥生時代の巨大な建造物の性格
　10．家族のあり方
4　縄文・弥生時代の男女
　11．縄文時代の土偶と石棒
　12．顔のついた蔵骨器と木偶
　13．弥生時代における男女一対の観念とその由来
5　人生の節目
　14．巨大な耳飾りの役割
　15．抜歯の意義
　16．イレズミの変容
6　祖先のまつり
　17．縄文時代の祖先観
　18．弥生再葬墓と祖先
　19．大陸由来の祖先祭祀
7　弥生文化の縄文文化的性格
　20．弥生土器の成立に関与した東北地方の縄文土器
　21．流水文・木葉文と工字文－縄文土器に起源する弥生土器の文様－
　22．銅鐸文様の起源
8　生産と流通の変化
　23．縄文・弥生時代の石器生産と流通
　24．渡来人と青銅器
　25．石器から鉄器へ－地域間の関係性の変化－
9　クニへの歩み
　26．縄文階層化社会論をめぐって
　27．弥生時代の首長の性格－北部九州と近畿地方の墓の比較から－
　28．楽浪郡との交通と冊封体制へ
　29．倭国乱の背景－漢帝国の崩壊から魏の建国とのかかわり－
　30．まとめ

歴史.indd　110　2015/03/10　15:30:55

準備学習

教科書を事前に購入して読んでおく。同成社『縄文時代の考古学』『弥生時代の考古学』, 青木書店『講座日本の考古学』などに目を通しておく。

履修上の留意点

予習として，次回に行う講義の部分の教科書を読み込んでくること。当日はその内容についての質問に答える形で講義を進める。

成績評価の方法

試験35%，平常点30%，出席35%

教科書／テキスト

設楽博己『縄文社会と弥生社会』日本歴史 私の最新講義10，敬文舎，2014年

歴史.indd 111 2015/03/10 15:30:55

(2) 博士後期課程

◎ 目　　的

歴史学専攻は，修士課程における研究成果を基礎として，日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各々の分野におけるより高度で専門的な研究能力を身につけ，国内外において歴史学研究の先端を担い高等教育機関等で十分に教育・研究の職務を果たしうる人材の養成を目的とする。

◎ 学位授与の方針

博士後期課程に３年以上在学し，「教育課程の編成・実施方針」に沿った開講科目を12単位以上修得し，かつ，必要な研究指導を受けたうえ，完成度が高く独創的で，学界の水準に達した博士論文を提出して，その審査及び最終試験に合格すること。

日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各専門分野において，修士課程の研究成果を基礎として，広い視野に立った精深な学識を修得し，より高度で専門的な研究能力を身につけていること。また，研究者として自立でき，国内外において歴史学研究の先端を担い高等教育機関等で十分に教育・研究を果たしうる人材であること。

以上のことを満たす人材に博士（歴史学）の学位を授与する。

◎ 教育課程の編成・実施方針

修士課程における研究成果を基礎として，各コースで各々の分野における専門的な研究能力を身につけ，国内外において歴史学研究の先端を担い，高等教育機関等で十分に教育・研究の職務を果たしうる人材の養成を目的して，研究指導科目と講義科目を設けている。

指導教員の個別指導のもとで自らの研究計画を作り，博士論文執筆の構想を練っていく。研究発表や学術誌への投稿を行いながら研鑽を積み，高度で独創的な論文になることを目指す。

◎ 修了の要件

１．博士後期課程に３年以上在学し，かつ，所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し，必要な研究指導を受けたうえ，博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければなりません。
２．指導教員の講義と研究指導は，毎年履修してください。

年次	必 修 科 目	選択科目	合　計
１年次	指導教員の講義４単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
２年次	指導教員の講義４単位および研究指導		
３年次	指導教員の講義４単位および研究指導		

注）平成17年度以前に入学した再入学者は，指導教員の研究指導を履修してください。

◎ 学位論文の審査基準

論文審査にあたっては，下記の項目を審査基準とする。

修士課程の学位論文審査基準を満たし，さらに完成度が高く独創的で，学界の研究水準に達した論文。

◎ 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は，選択科目として指導教員以外の講義を履修することができます。その場合は，その科目の担当教員の承諾を得てください。

◎ 開講科目

授　業　科　目	学習方法	単位数	担　　当　　者	備　　考
日本史学特殊研究Ⅰ 日本史学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博（文）　瀧　音　能　之	
日本史学特殊研究Ⅱ 日本史学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・文博　久保田　昌　希	
日本史学特殊研究Ⅲ 日本史学研究指導Ⅲ	講義 研究指導	4	専任・文博　廣　瀬　良　弘	（本年度休講）
日本史学特殊研究Ⅳ 日本史学研究指導Ⅳ	講義 研究指導	4	専任・博（日）　中　野　達　哉	
日本史学特殊研究Ⅴ 日本史学研究指導Ⅴ	講義 研究指導	4	専任・博（歴）　湯　浅　　隆	

歴史.indd　112　　2015/03/10　15:30:55

日本史学特殊研究Ⅵ 日本史学研究指導Ⅵ	講義 研究指導	4	専任・博（歴）	小　泉　雅　弘
日本史学特殊研究Ⅶ 日本史学研究指導Ⅶ	講義 研究指導	4	専任・博（文）	熊　本　史　雄
東洋史学特殊研究Ⅰ 東洋史学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任	石　井　　仁
東洋史学特殊研究Ⅱ 東洋史学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博（文）	中　村　　淳
西洋史学特殊研究Ⅰ 西洋史学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博（文）	大　城　道　則
西洋史学特殊研究Ⅱ 西洋史学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博（歴）	佐々木　　真
考古学特殊研究Ⅱ 考古学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博（日）	酒　井　清　治

※平成17年度以前に入学した再入学者の科目名は，旧科目名に読み替える。

◎　指導内容

日本史学特殊研究Ⅰ【講義】
日本史学研究指導Ⅰ【研究指導】
瀧　音　能　之

授業概要
受講生の博士学位論文のテーマに沿って，指導いたします。
到達目標（ねらい）
受講生の博士学位論文の完成を目指します。
授業スケジュール
受講生のテーマの決定，目次の決定，論文の完成などを回をおって進めて行きたいと思います。
準備学習
受講生は，自覚を持って研究テーマの追及に励んでください。
成績評価の方法
レポート90%，平常点10%

日本史学特殊研究Ⅱ【講義】
日本史学研究指導Ⅱ【研究指導】
久保田　昌　希

授業概要
受講生の研究課題や問題関心と関連する分野とつながる史資料や論文等をとりあげ，できる限り私見を紹介する。また適宜受講生による研究報告の場とし，それに対する指導を行う。当然ながら受講生には研究の深化を期待する。こうした過程を通じ，研究論文をまとめ，博士学位申請論文の提出に繋げられるよう指導したい。
到達目標（ねらい）
講義と受講生の研究報告・指導の形式により授業を実施する。それらを通して，受講生への研究論文作成から完成への指導。その後の学位申請論文申請に至る指導を行う。
授業スケジュール
第１回　ガイダンス
第２回　ガイダンス
第３回　戦国史研究の成果と課題
第４回　戦国史研究の成果と課題
第５回　戦国史研究の成果と課題
第６回　戦国史研究の成果と課題
第７回　戦国史研究の成果と課題
第８回　受講生の研究課題と論点の整理
第９回　受講生の研究課題と論点の整理
第10回　受講生の研究課題と論点の整理
第11回　受講生の研究課題と論点の整理
第12回　受講生の研究課題と論点の整理
第13回　受講生の研究課題と論点の整理
第14回　受講生の研究課題と論点の整理
第15回　受講生の研究報告とそれへの指導
第16回　受講生の研究報告それへの指導
第17回　受講生の研究報告とそれへの指導
第18回　受講生の研究報告とそれへの指導
第19回　受講生の研究報告とそれへの指導
第20回　受講生の研究報告とそれへの指導
第21回　受講生の研究報告とそれへの指導
第22回　論文叙述への指導
第23回　論文叙述への指導
第24回　論文叙述への指導
第25回　論文叙述への指導
第26回　論文叙述への指導
第27回　論文叙述への指導
第28回　論文叙述への指導
第29回　論文叙述への指導
第30回　今後の展望と指導
準備学習
言うまでもないが，受講生は自身の研究課題に関わる研究状況について，学界・学会動向や，研究論文・史料の翻刻状況など，現状を把握しておくこと。また機会をみて，関連する現地への実踏調査や史資料保存機関での調査，また地域を含め広く研究者との交流につとめること。
成績評価の方法
研究報告やその進捗，論文等の成果等総合的に評価する。100%
履修上の留意点
上述「準備学習」と同じ。
教科書／テキスト
適宜相互で検討して決めたい。
参考書
適宜相互で検討して決めたい。

日本史学特殊研究Ⅳ【講義】
日本史学研究指導Ⅳ【研究指導】
中　野　達　哉

授業概要
近世・近代史料調査およびその活用について，実践しながら考えることを目的に授業を行う。
到達目標（ねらい）
史料の調査・保存について考え，分析できる力を養い，研究者として適切な史料への取り組みができるようになること

歴史.indd　113　　2015/03/10　15:30:55

を目標とする。

授業スケジュール

受講者の問題関心に沿ったテーマを設け，授業を進める。なお，９月末～10月初め頃に，４日程度史料調査実習（合宿）を実施する。

第１回　授業についてのオリエンテーション
第２～12回　史料調査の実践と史料の分析について
第13回　史料調査実習（合宿）についての打ち合わせ
第14～17回　史料調査実習（佐久市望月にて実施，課題授業として実施予定）
第18～30回　史料調査の実践と史料の分析について

準備学習

史料の背景となる事象について調べてくること。

成績評価の方法

平常点100％

履修上の留意点

史料調査実習には必ず参加すること。

教科書／テキスト

教科書はなし。

参考書

適宜指示する。

日本史学特殊研究Ⅴ【講義】
日本史学研究指導Ⅴ【研究指導】

湯　淺　　隆

授業概要

江戸時代農民の文化的力量を，西欧との比較において考察する。具体事例として，幕末・維新期にフランスへ輸出された蚕種にかんする，当地における評価を採りあげる。

到達目標（ねらい）

江戸時代社会を考察するにあたり，一国史を超えた視点を養うこと。

授業スケジュール

第１回　先行研究における当該課題の取り上げ方（１）
第２回　先行研究における当該課題の取り上げ方（２）
第３回　先行研究における当該課題の取り上げ方（３）
第４回　日本における西欧近代モデルへの捉え方（１）
第５回　日本における西欧近代モデルへの捉え方（２）
第６回　中国における養蚕の創始
第７回　日本列島ににおける絹関係出土遺物
第８回　律令制下における絹業
第９回　荘園制下における絹業への評価
第10回　大航海時代における日中絹貿易
第11回　江戸時代前期における長崎貿易と国内養蚕業
第12回　正徳年間における貿易政策の転換と国内養蚕業
第13回　蚕育のあり方
第14回　蚕育における飼育法の研鑽
第15回　江戸時代の蚕書
第16回　18～19世紀西欧における東アジア産蚕への認識
第17回　19世紀前半のフランスにおける絹業
第18回　西欧養蚕地帯における19世紀半ばの蚕病大流行
第19回　蚕病にたいする西欧養蚕国の対策-フランスの場合-
第20回　西欧養蚕国の意向にたいする江戸幕府の政策的対応
第21回　フランス養蚕地帯における日本産蚕種-Ardèche県の事例-
第22回　フランスにおける日本産蚕種への評価
第23回　日本蚕書の仏訳とLéon de Rosny
第24回　Pasteurの研究の位置づけ
第25回　幕末・維新期における日本産蚕種の国際評価
第26回　明治年間から戦前期における蚕種改良
第27回　戦前期における日本の絹業
第28回　戦後期における日本の絹業
第29回　20世紀末における日本養蚕業の国際競争力
第30回　こんにちにおける蚕業

準備学習

指示を，ことさらにする必要があるとは認識していない。

成績評価の方法

平常点100％

授業へのかかわり方で判定する。

履修上の留意点

授業スケジュールのうち，大学暦で課題授業に設定されている回はその形式となる。

教科書／テキスト

特定のものは使用しない。

参考書

その都度に提示する。

日本史学特殊研究Ⅵ【講義】
日本史学研究指導Ⅵ【研究指導】

小　泉　雅　弘

授業概要

幕末から明治期を対象とし，論文講読発表を行うことによって，現在の研究状況や問題点・課題点について検討する。そして，受講生自らの研究テーマを研究史に位置づけたうえで，研究発表と討論を行う。

到達目標（ねらい）

上記の発表を通じて，論文執筆の技術と方法を養成する。

授業スケジュール

第１回～第30回の発表を行うことによって，先行研究の的確な理解，史料調査と史料解読，立論の方法などを身につけ，受講生の研究の進捗と体系化を図っていく。

上記の他に，課題授業として，長野県佐久市と静岡県下田市において古文書調査（３泊４日程度）を実施する。

準備学習

問題関心を持って，なるべく多くの研究書や論文を精読すること。

成績評価の方法

総合的評価100％

研究発表の内容や学習態度など，総合的に評価する。

履修上の留意点

自分の研究テーマに関連する学会やシンポジウム，古文書調査などには積極的に参加すること。

教科書／テキスト

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

日本史学特殊研究Ⅶ【講義】
日本史学研究指導Ⅶ【研究指導】

熊　本　史　雄

授業概要

本講では，受講生各自の研究テーマに沿って，博士論文執筆に向けた研究指導を行う。さらには，学会報告や学術雑誌への論文投稿，史料調査など，博士論文執筆に繋がる諸活動についての指導も併せて行う。

到達目標（ねらい）

博士論文を書き上げるために必要な全ての技能と力を身につけることを目標とする。

授業スケジュール

第１回　オリエンテーション（授業の概要，前期の報告順序の決定）
第２～15回　報告
第16回　オリエンテーション（後期の報告順序の決定）
第17～30回　報告

準備学習

受講生の研究テーマに沿った報告に対する指導を行うことで授業を進めていくので，各自，十分な時間をかけて準備に

歴史.indd　114　　2015/03/10　15:30:55

当たること。

成績評価の方法

平常点100％

授業での報告内容に加え，博士論文執筆に繋がる各種要素，すなわち学会・研究会での報告，論文投稿，史料調査などもふくめて，総合的に判断する。

教科書／テキスト

特になし。

参考書

適宜紹介する。

東洋史学特殊研究Ⅰ【講義】
東洋史学研究指導Ⅰ【研究指導】

石　井　　仁

授業概要

魏晋南北朝時代の地方行政について，都督制度ならびに都督府の成立過程を中心に検討を加える。１）都督に先行する諸制度の展開をふまえつつ，２）軍師（軍司）や参軍事など，都督府を構成した諸官職の起原を探ることによって，都督府の成立過程を明らかにする。

到達目標（ねらい）

（１）研究史の整理について理解を深める。
（２）史料の読解について理解を深める。
（３）以上のような能力を高め，自らの研究に応用できるようにする。

授業スケジュール

第１回　六朝都督制研究の現状と課題（１）
第２回　六朝都督制研究の現状と課題（２）
第３回　六朝都督制研究の現状と課題（３）
第４回　六朝都督制研究の現状と課題（４）
第５回　六朝都督制研究の現状と課題（５）
第６回　基本史料の再検討―使持節と仮節（１）
第７回　基本史料の再検討―使持節と仮節（２）
第８回　基本史料の再検討―使持節と仮節（３）
第９回　基本史料の再検討―使持節と仮節（４）
第10回　基本史料の再検討―使持節と仮節（５）
第11回　都督府の成立（１）
第12回　都督府の成立（２）
第13回　都督府の成立（３）
第14回　都督府の成立（４）
第15回　都督府の成立（５）
第16回　軍師と軍師祭酒（１）
第17回　軍師と軍師祭酒（２）
第18回　軍師と軍師祭酒（３）
第19回　軍師と軍師祭酒（４）
第20回　軍師と軍師祭酒（５）
第21回　参軍事の発達（１）
第22回　参軍事の発達（２）
第23回　参軍事の発達（３）
第24回　参軍事の発達（４）
第25回　参軍事の発達（５）
第26回　随府とその周辺（１）
第27回　随府とその周辺（２）
第28回　随府とその周辺（３）
第29回　随府とその周辺（４）
第30回　随府とその周辺（５）

準備学習

開講直後に配付する参考文献一覧，および毎回配付する資料プリントを十分に活用し，基本文献，および基本史料について，予習・復習を進めること。

成績評価の方法

レポート50％，平常点50％

履修上の留意点

魏晋南北朝史研究の基本問題（貴族制，均田制など），あるいは中国の官僚制度，政治・軍事制度などに関する基礎知識については，専門の論著などを通して，事前に自らの責任で習得しておいて欲しい。

教科書／テキスト

使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

参考書

宮崎市定『九品官人法の研究』（東洋史研究会，1956年），嚴耕望『中国地方行政制度史』乙部上冊・下冊「魏晋南北朝地方行政制度」（中央研究院歴史語言研究所専刊45A･B，1963年，台北），小尾孟夫『六朝都督制研究』（渓水社，2001年）など。また，開講時に参考文献一覧を配付するほか，随時紹介する。

東洋史学特殊研究Ⅱ【講義】
東洋史学研究指導Ⅱ【研究指導】

中　村　　淳

授業概要

イスラーム化以前の中央ユーラシア史に関する一次史料を読み進めながら，受講生への研究指導を行なう。

到達目標（ねらい）

史料に対する文献学的な処理の方法，徹底的な研究史整理など，学問の基本を確実に修得していくことを目標とする。

授業スケジュール

第１回　　ガイダンス
第２回～第15回　テキスト講読
第16回　　ガイダンス
第17回～第30回　テキスト講読
なお，受講生は適宜報告を行なうことになる。

準備学習

講読箇所については毎回，特に問題点を明確にした上で授業に臨み，史料にどのような史実を語らせることができるかを常に考えておくこと。

成績評価の方法

総合評価100％

履修上の留意点

予習と授業の際にはどん欲なまでの知的好奇心をもって臨み，授業後も残された課題について考え探求する姿勢を持ち続けて欲しい。

教科書／テキスト

講読する史料については，初回授業時に決定する。

参考書

授業時に適宜紹介する。

西洋史学特殊研究Ⅰ【講義】
西洋史学研究指導Ⅰ【研究指導】

大　城　道　則

授業概要

博士論文作成に関する指導を行う。

到達目標（ねらい）

三年以内に課程博士論文の提出を目指す。

授業スケジュール

受講生と相談の上，年間スケジュールを決定する。

準備学習

講義・演習以外の時間を有効に使うことを心掛けるように。

成績評価の方法

博士論文作成の進展度100％

西洋史学特殊研究Ⅱ【講義】
西洋史学研究指導Ⅱ【研究指導】

佐々木　　真

授業概要

西洋史近代史研究に必要な力を養成するとともに，各受講生の研究指導を行う。

歴史.indd　115　　2015/03/10　15:30:55

到達目標（ねらい）

博士論文の作成に向けて，適切な方法論や史料論を身につけることを目標とする。

授業スケジュール

西洋近代史にかんして，歴史理論や研究内容についての最新動向を検討する。授業はおもに，外国語による最新の著作を講読することにより行う。また，必要に応じ，１人につき年に何回か，受講生に各人の研究内容についての報告をしてもらいます。

第１回　　ガイダンス
第２回～第30回　テキストの講読
※必要に応じて，受講生により報告を実施する。

準備学習

対象の文献をあらかじめ読み，授業で議論ができる準備をしてくること。

成績評価の方法

レポート30％，平常点70％

成績については，報告の内容と学年末のレポートにより決定する。

教科書／テキスト

使用する文献や具体的な進め方は，初回の授業に受講生と相談して決定する。

その他

なおこの授業では，30回の内，数回の課題授業を実施する。課題や実施形式等は第１回目の講義の際に説明する。

考古学特殊研究Ⅱ【講義】
考古学研究指導Ⅱ【研究指導】

酒　井　清　治

授業概要

各自が掲げている研究テーマに沿って，考古資料をどのように読み解き，それを論文として発表するにはどのようにしていくかを指導する。

到達目標（ねらい）

実証的な論文をまとめるため，遺物・遺跡を多く見て組み立てていけるような研究が出来るように指導し，論文や博士論文作成を目標とする。

授業スケジュール

第１回　　ガイダンス
第２回～　資料紹介や研究ノート，あるいは論文を数多く書けるよう，執筆方法などの養成を行う

準備学習

学内だけでなく，研究会，学会へ積極的に出かけ，研究者や大学院生と交流を持ち，現在どのような研究方向にあるのか，自らの目で確かめて研究に生かしてほしい。

成績評価の方法

レポート50％，平常点50％

履修上の留意点

研究者としての自覚を持ち，自ら積極的に発掘調査，学会活動に参加し，授業以外からも知識を得たり交流を行ってほしい。

参考書

授業の中で適宜紹介する。

歴史.indd　116　　2015/03/10　15:30:56